

外国人バックカントリースキーヤーの 安全確保に向けた検証事業

事業実施報告書

2025年3月

国土交通省北海道運輸局

目次

業務の概要

(1) 事業概要	P 2
(2) 実施体制図	P 2
(3) 業務実施スケジュール	P 3
1 事業の目的・背景	
(1) 北海道におけるバックカントリースキーの現状	P 4
(2) 事業の目的	P 4
(3) 事業の背景	P 5
2 実施内容	
(1) キックオフセミナー	P 7
(2) 基礎調査	
実態把握アンケート調査（意識調査）	P10
遭難事故状況調査（R1～R6）	P12
海外事例調査	P13
必要な知識・装備・リスク管理等の再整理	P13
(3) 検討会	P14
(4) 課題解決策の実践	
ホームページによる情報発信	P18
ウェブカメラによるおおよその入山者数の把握	P23
周知用ポスターの掲出	P24
周知用ステッカーの配布及び掲出	P26
(5) 態度変容調査	P27
(6) 有識者検証	P29
(7) 事業報告会	P38
3 報道・雑誌等での事業掲載	P41
4 事業のまとめ	
(1) 外国人スキーヤーの属性を踏まえた対策	P43
(2) 必要とされる安全対策（情報発信）	P44
5 受託事業者からの提案	
(1) 取組の主体	P46
(2) 入山者数の適正化（安全対策と観光資源の観点から）	P46
(3) 共助による救助組織の再構築	P47
(4) おわりに	P47

別冊

- 別冊1 外国人BCスキーヤーに関する実態把握調査 アンケート集計（実態把握アンケート調査）
- 別冊2 北海道におけるバックカントリースキー事故の分析結果（遭難事故状況調査）
- 別冊3 海外事例調査
- 別冊4 バックカントリースキーを安全に楽しむために（必要な知識・装備・リスク管理等の再整理）
- 別冊5 外国人BCスキーヤーに関する実態把握調査（2回目） アンケート分析（態度変容調査）

業務の概要

（１）事業概要（仕様書より抜粋）

■ 事業目的

北海道が世界に誇るパウダースノーを楽しむために、コロナ禍以降も欧米豪市場における道内の冬季の宿泊延数は増加しており、また自然そのままの雪山をスキーやスノーボードで滑走するバックカントリースキー（以下、「BCスキー」という。）は訪日外国人旅行者を中心に人気が高まっている。

一方で、外国人旅行者を中心に、BCスキーを行う際に必要な雪山の知識や技術の不足、安全に対する意識の欠如・エリア毎に定められているコース外滑走のルール認知度が低いなどの要因から雪崩等による遭難事故が絶えない状況が課題となっている。

本事業ではBCスキーを楽しむ外国人旅行者の増加を見据え、世界最高水準のパウダースノーを誘客の柱とした世界ブランドの確立を目指し、バックカントリースキーヤー（以下、「BCスキーヤー」という。）が適時・的確に安全を確保するための有効な手法を検討・実証することで、滑走者の安全確保と満足度向上に繋がられるか検証する。

■ 事業内容

- （１）意識醸成（キックオフセミナーの実施）
- （２）現状把握と安全確保に向けた課題抽出（基礎調査の実施）
- （３）基礎調査を踏まえた検討会の実施
- （４）BCスキーを安全に楽しむための課題解決策の検証（態度変容調査）
- （５）課題解決に向けた方向性の検討

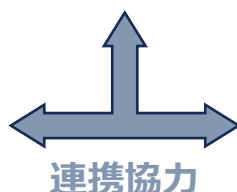
（２）実施体制図

【事業主体】 国土交通省北海道運輸局



【受託事業者】 株式会社Pioneerwork
業務全体推進管理、報告、各種企画

【協力団体】 北海道山岳ガイド協会
道内ガイド（法人・個人）・バックカントリー有識者との連携、調査分析



【協力会社】 株式会社アンドカムイ
各種企画・調査分析・資料作成・各施策ファシリテーション

業務の概要

(3) 業務実施スケジュール

			10月			11月			12月				
			上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬		
(1) キックオフ セミナー	バックオフィス	開催調整		・開催「調整（日時、会場、参加者など）」									
				・各種資料作成、開催調整									
							・案内発送（11/7）						
	実施	開催						・開催（11/19）					
	バックオフィス	後作業							・アンケート集約、議事録作成				
(2) 基礎調査	実施	実態把握調査		・内容決定			・オンライン調査		・集計分析		・追加集計		・再分析
	バックオフィス	遭難事故状況調査		・内容決定		・事例調査				・集計分析			
	実施	海外事例調査		・内容決定		・ヒアリング、アンケート			・集計分析				
	実施	必要な知識等の再整理		・内容決定		・文献調査、ヒアリング		・集計分析					
(3) 検討会	バックオフィス	開催調整		・調整（日時・会場・参加者など）									
								・案内発送（11/7）					
							・各種資料作成、開催調整			・各種資料作成、開催調整			
	実施	開催						・第1回（11/19）				・第2回（12/16）	
	バックオフィス	後作業								・第1回の議事録作成			
課題解決策	バックオフィス	素案作成		・事務局案作成、契約準備など					・制作作業				・修正作業
								・事務局案提示				・案提示	
	実施	許可等調整					・許可等調整						
(4) 態度変容調査	バックオフィス	実施内容検討等							・ヒアリング、アンケートの内容検討				
									・実地ヒアリング箇所、人員選定				
その他		定例MTG		・キックオフ		・定例		・定例		・定例		・定例	・定例
			1月			2月			3月				
			上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬		
(3) 検討会の開催	バックオフィス	後作業		・第2回の議事録作成									
課題解決策	実施	展開		・修正作業		・解決策の展開（1/15～）							
(4) 態度変容調査	実施	現地ヒアリング				・第1回		・第2回					
	バックオフィス	集計作業					・集計分析						
(5) 事業報告会	バックオフィス	開催調整		・開催調整（日時、会場、参加者、講演者・パネリストなど）									
							・案内発送（2/21）						
				・各種資料作成									
	バックオフィス	有識者検証		・有識者選定、検証依頼			・検証作業						
	実施	開催								・開催（3/19）			
	バックオフィス	後作業								・アンケート集約			
									・議事録作成				
									・事業報告				
その他		定例MTG		・定例		・定例		・定例		・定例		・最終	

1 事業の目的・背景

(1) 北海道におけるバックカントリースキーの現状

■ 冬季における訪日外国人の宿泊者数の増加

- ・ 諸外国と比べ相対的に低い物価（物価上昇が緩やか）、円安市場によるお値打ち感
- ・ 日本の治安の良さと外資系企業による不動産投資

■ 北海道におけるバックカントリースキーの人気の高まり

- ・ 高緯度帯に位置することによる雪の軽さ、西高東低型の気圧配置による積雪量の多さ
- ・ 札幌圏を中心とした各山岳エリアまでのアクセスの良さ

■ 外国人バックカントリースキーヤーの遭難事故の増加

課題

【考えられる要因】

- ・ バックカントリースキーヤー自身の知識・スキル等の不足
- ・ 環境整備の不足や情報発信の不足

(2) 事業の目的

遭難事故の増加要因の分析

- ・ 外国人バックカントリースキーヤーの傾向把握
- ・ 多角的観点からの実態把握



分析結果に基づく改善の取組

- ・ 外国人バックカントリースキーヤーに向けた環境整備・情報発信等（検証含む）
- ・ 事故要因の更なる掘り下げ



BCエリアの安全性向上

- ・ 観光コンテンツとしてのバックカントリーをより魅力的なものに
- ・ 国内バックカントリースキーヤーの意識向上にも

**外国人バックカントリースキーヤーに
北海道を継続して選んでもらう**

（国内他地域への取組の波及）

1 事業の目的・背景

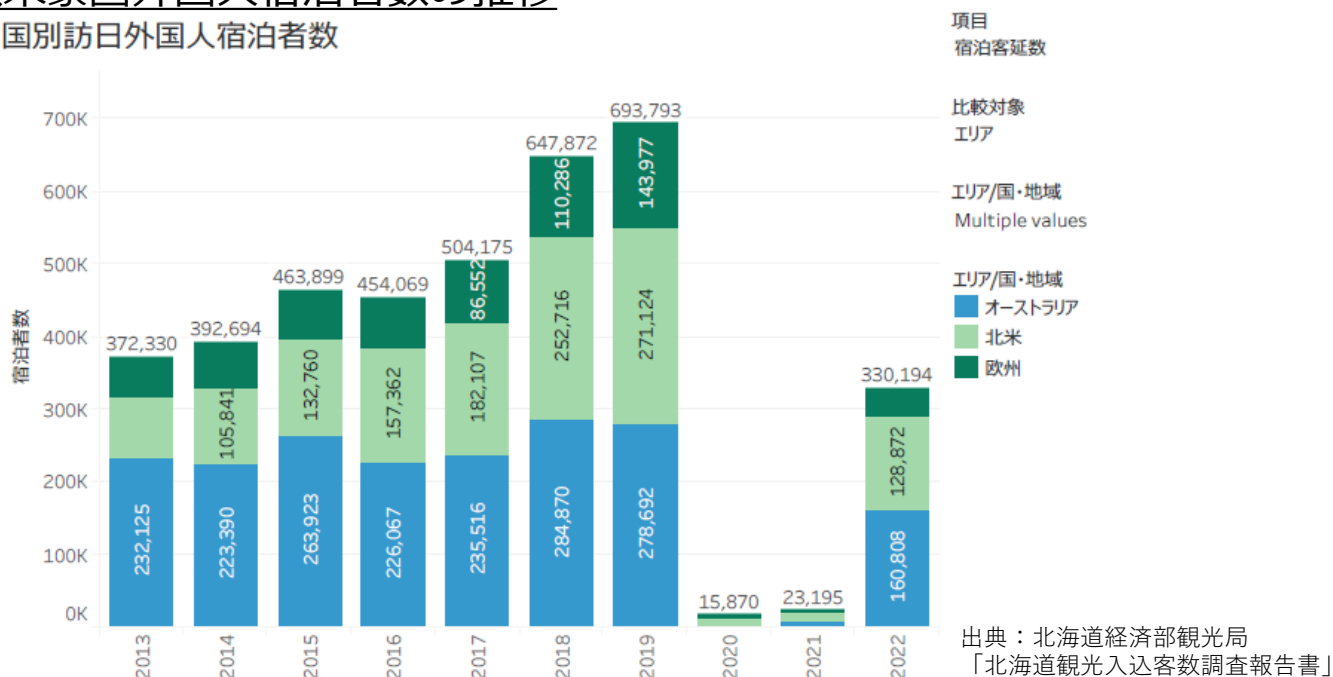
(3) 事業の背景

回復しつつある冬期宿泊者数

コロナ禍によって一時激減した訪日外国人の宿泊者数であるが、現在は、コロナ禍以前の数に追いつく勢いで増加傾向にある。その中でも北海道では冬季の宿泊者が大半を占めている。

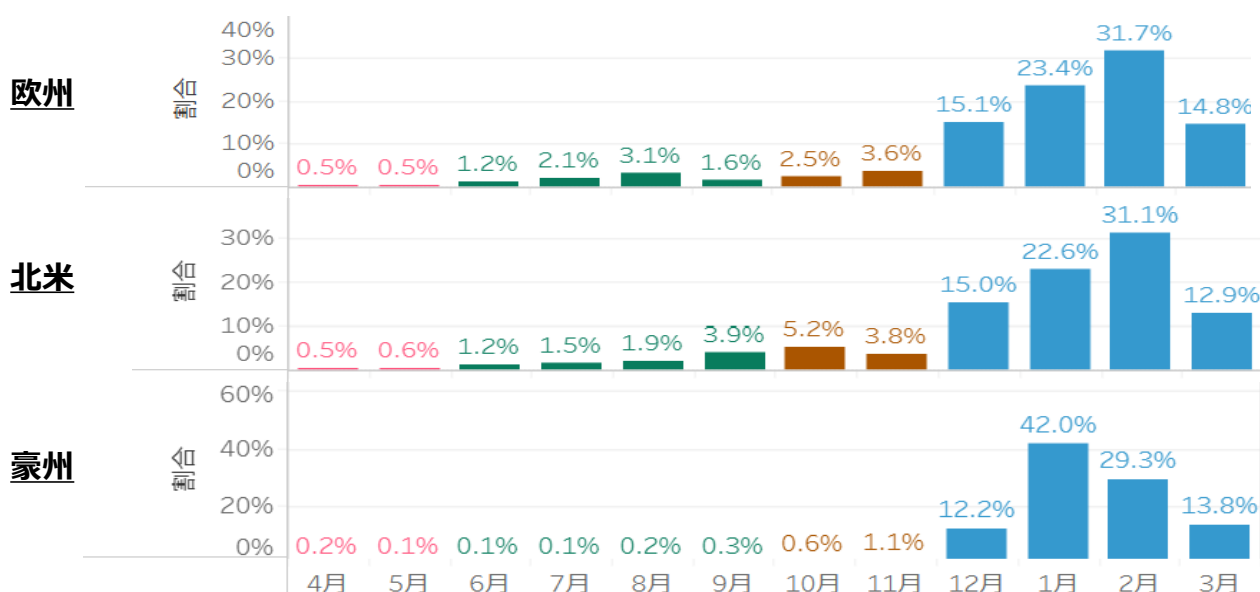
欧米豪圏外国人宿泊者数の推移

国別訪日外国人宿泊者数



※欧米豪圏の宿泊者数は、2022年時点でコロナ禍以前の約半数まで回復。今後は更に増加すると考えられる。

2022年欧米豪の季節別宿泊者比率



出典: 北海道経済部観光局「北海道観光入込客数調査報告書」

※欧米豪圏の宿泊者の約9割が冬季での来訪であり、ウィンタースポーツ需要が高いものと考えられる。

1 事業の目的・背景

■ 高まり続けるバックカントリースキー需要

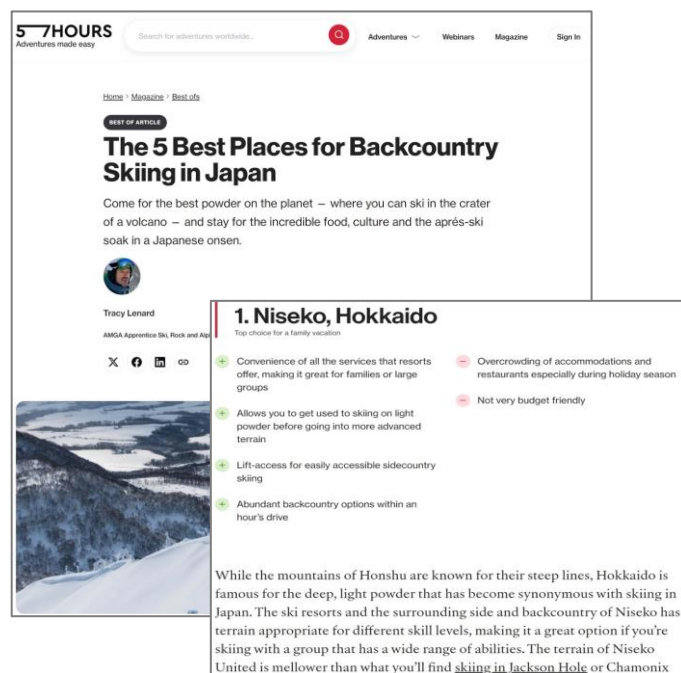
バックカントリースキーには、そのリスクの高さから、自然環境に対する正しい理解やスキル等が求められるが、北海道の雪山はその雪質の良さ、降雪量の多さから、国内外問わずスキーヤー達の間における人気エリアとなっている。

○道内の観光関係団体や国内主要スノーメディア等が、外国人からのバックカントリースキー需要を認めている。

○国内メディアだけでなく、海外メディアでも北海道でのバックカントリースキーが特集されている。

「現在、大雪エリアにもパウダースノーやバックカントリーを旅行の主目的とした欧米豪(特にオーストラリア、イギリス、アメリカ)の旅行者が増加している。」

出典：一般社団法人カムイミントラDMO「令和2年度地域スポーツ資源を活用したインバウンド拡大のためのモデル事業委託事業完了報告書」



<https://steep.jp/mountain/7295/>

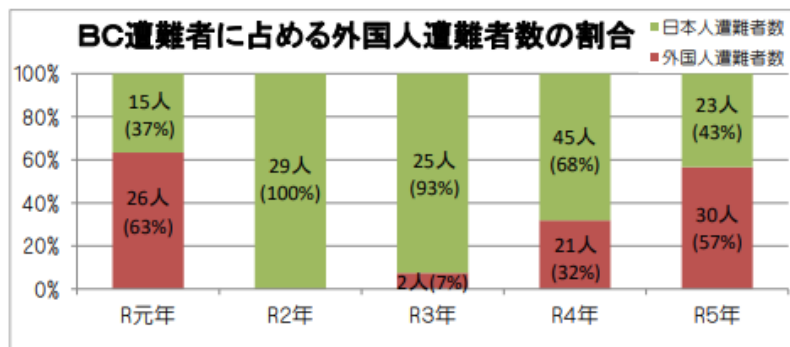
<https://57hours.com/best-of/backcountry-skiing-japan/>

■ 増加する遭難事故

道内のバックカントリー遭難事故の特徴としては、訪日外国人比率が高いと考えられる。

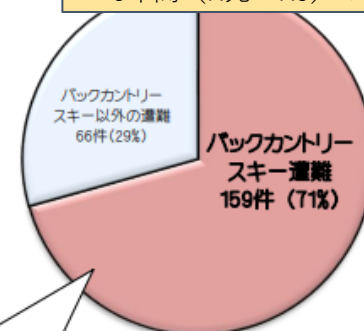
□ バックカントリースキー(BC)遭難発生状況(過去5年冬山シーズン)

	R元年	R2年	R3年	R4年	R5年	計
発件数	32	26	19	43	39	159
遭難者数	41	29	27	66	53	216
外国人遭難者数	26	0	2	21	30	79
死亡	5	3	0	5	5	18
行方不明	1	0	0	0	0	1
負傷	11	13	5	13	24	66
無事	24	13	22	48	24	131



冬山遭難におけるバックカントリースキー遭難件数の割合

5年間(R元～R5)の合計値



■ 冬山シーズンの遭難は、バックカントリースキー遭難が全体の約7割を占めます。
■ 令和5年シーズンの外国人遭難者は30人で、前年と比較すると9人増加しており、外国人スキーヤー数がコロナ禍前の状況に戻りつつあると考えられます。
令和6年冬山シーズンも多く外国人スキーヤーが訪れると予想されます。

出典：北海道警察本部「令和5年度冬山シーズンにおける山岳遭難発生状況」

2 実施内容

(1) キックオフセミナー

■日時・場所

2024年11月19日（火） 10:00～12:00

かでる2・7 1060会議室（札幌市中央区北2条西7丁目） ※オンライン視聴併用

■次第

- ・【講演】世界一のパウダースノーアイランド北海道の魅力とその未来
- ・本事業の目的及び進め方について

■出席団体等

出席者数：52名（うち23名がオンライン参加）

自治体：11名、観光協会・NPO：7名、事業者：10名、国：19名、その他：5名

■講演登壇者プロフィール

北海道山岳ガイド協会理事長 佐々木 大輔 氏



- ・1977年北海道生まれ。
- ・国際山岳ガイド、日本山岳ガイド協会理事、北海道山岳ガイド協会理事長、雪氷災害調査チーム。
- ・20歳代からエクストリームスキーヤーとして世界各地の大会を転戦。同時に、北海道の仲間たちとデナリ（2000年）、北千島（2001年）、グリーンランド（2003年）、パタゴニア（2007年）などにシュプールを刻む。
- ・第51次南極観測隊セール・ロンダーネ山地地学調査隊フィールドアシスタント。
- ・2016年、デナリのカシンリッジに登攀し南西壁を滑降。
- ・2023年、パキスタン・カラコラムにてスキー遠征。

■主な講演テーマ

- ・北海道のバックカントリーエリアについて
道内におけるバックカントリーが盛んな山域について
- ・なぜ北海道には上質な雪が大量に降るのか
大陸からの寒冷な空気が北西の季節風に乗って、水蒸気が少ない状態で大量に流れこんでくることによって、本州とも一味違った大量で上質の雪を降らせる
- ・バックカントリースキーの魅力
深くて軽い、そして誰もいない中での新雪を滑るという行為が、世界中のスキーヤー達を虜にする
- ・バックカントリーの未来
世界的に見ても、降雪量と雪質に恵まれたこの北海道を、今後も世界中のスキーヤー達が安全に楽しめるよう、皆で手を取り合って対策を考えていくことが必要

2 実施内容

■案内パンフレット

国土交通省北海道運輸局

「外国人バックカントリースキーヤーの安全確保に向けた検証事業」

訪日外国人旅行者受入環境課題解決セミナー

2024年11月19日(火)

10:00 ~ 12:00(受付開始 9:40~)

会場:かでの2・7 1060会議室
(札幌市北2条西7丁目)

※オンライン配信(ZOOM)とのハイブリッド開催を予定しております。

北海道で外国人旅行者を中心にバックカントリースキーを楽しむ方が増える一方で、必要な技術や知識の不足、安全に対する意識の欠如等を要因として、雪崩による遭難事故が絶えない状況が課題となっています。

このような状況を踏まえて北海道運輸局では、バックカントリースキーヤーの安全確保に向けた調査事業を実施することとなり、事業実施にあたり、地域関係者(自治体、観光協会、行政機関、ガイド、山岳関係者など)を対象に事業概要等を紹介するキックオフセミナーを開催いたします。

○参加対象:自治体、観光協会、行政機関、ガイド、山岳関係者 等

プログラム

1. 話題提供
「外国人バックカントリースキーヤーの安全確保に向けて」
～事業概要、今後の展開について～

2. 基調講演
「北海道がスキーヤー達に選ばれる理由とその魅力・優位性」
北海道山岳ガイド協会理事長・ガイド盤溪代表 佐々木 大輔 氏

主 催 国土交通省北海道運輸局

事務局 (株)Pioneerwork

お問い合わせ先

お申込み方法 裏面の参加申込書に必要事項をご記入後、上記問い合わせ先までご提出ください。

申込締切日 11/15(金)

Profile 講師情報

佐々木 大輔 氏 北海道山岳ガイド協会理事長・ガイド盤溪代表

【講師略歴】

- ・1977年北海道生まれ。
- ・国際山岳ガイド、日本山岳ガイド協会理事、北海道山岳ガイド協会理事長、雪氷災害調査チーム。
- ・20歳代からエクストリームスキーヤーとして世界各地の大会を転戦。同時に、北海道の仲間たちとデナリ(2000年)、北千島(2001年)、グリーンランド(2003年)、パタゴニア(2007年)などにシュプールを刻む。
- ・第51次南極観測隊セール・ロンダーネ山地地学調査隊フィールドアシスタント。
- ・2016年、デナリのカシンリッジを登攀し南西壁を滑降。
- ・2023年、パキスタン・カラコラムにてスキー遠征。

<講師メッセージ>

コロナ禍により落ち込んだ道内のインバウンド需要も、コロナ禍以前の水準まで回復を見せていること、また昨今、訪日外国人からのバックカントリー人気が高まっていること、雪山に携わる人間として喜ばしい限りです。

一方で、バックカントリースキーヤー・スノーボーダーの事故も年々増加しており、その中には痛ましい事故に発展するケースもあります。

北海道を訪れる外国人の方々が、素敵な雪山の思い出とともに母国に帰れるよう、また日本に行きたいと思ってもらえるよう、北海道運輸局をはじめ皆さんと一緒に事故防止対策を考えていきたいと思っています。どうぞよろしくお願ひします。

参加申込書:11/15(金)〆切

本セミナーへの参加を希望される方は、必要事項をご記入のうえ以下問い合わせ先までメールにてご提出をお願いいたします。

氏名	フリガナ
事業者名(企業、団体名)	
電話番号	メールアドレス
業種	
参加方法	現地 ・ オンライン(申込後、視聴URLを送付します。)

※ 本セミナーには参加しないが、本事業に関する情報共有を希望される方は以下に連絡先をご記入ください。

連絡先	フリガナ
電話番号	メールアドレス

問い合わせ先

【個人情報の取扱いについて】
お申し込み時にご入力いただいた個人情報は本件に関する諸連絡および会費受付のみに利用いたします。参加者の同意なしに個人情報を第三者に開示・提供することはありません(法令等により開示を求められた場合を除く)。

■当日風景



2 実施内容

参加者アンケートでのご意見

▶バックカントリーにおける課題

- ・山岳エリアやスキー場管理区域外における滑走のハンドリング、責任問題
- ・救助対応に係る連携と費用
- ・啓蒙、情報提供・発信の進め方
- ・北海道内の行政団体やスキー場において、バックカントリーの取扱い、考え方などについての統一見解がないこと

▶課題解決のために必要だと考える取組

- ・行政団体におけるルールづくりや予算付け
- ・行政団体やガイド団体、雪崩研究団体等と事業者間の協調・連携

▶本事業に期待すること

- ・各エリアでの雪崩等リスク情報の発信に向けた環境整備
- ・急速に増加が進むインバウンドをターゲットとしたガイドスタッフの育成
- ・各スキー場でのバックカントリー利用に結び付きうる基本ルールの策定
- ・バックカントリーに対する理解が進むような（今回のような）セミナーの開催

2 実施内容

(2) 基礎調査

■ 実態把握アンケート調査（意識調査）

課題解決策の立案を行うための前提として、外国人バックカントリースキーヤーの行動特性等を把握するため、実態把握アンケート調査を実施した。 ※別冊1 外国人BCスキーヤーに関する実態把握調査 アンケート集計（実態把握アンケート調査）

■ **調査期間**：2024年10月24日（木）～11月28日（木）

■ **調査対象**：過去7年間に、北海道のバックカントリー（リフトアクセス、非リフトアクセス問わず）で、スキー／スノーボードを滑ったことのある外国人

■ **調査手法**：Google Formsを用いたウェブアンケート
先着200名の回答者に対して、ギフトカード（5ドル分）をプレゼント
抽選で2名の回答者に対して、アースホッパーをプレゼント

■ **募集方法**：掲示板型SNS「Reddit」内のバックカントリー系フォーラムや、「HokkaidoWilds.org」への投稿 など

■ **有効回答**：491名

※アンケート
トップ画面

Hokkaido (Japan) Backcountry Ski Survey 2024

Thank you so much for visiting our survey about your experiences of skiing the backcountry here in Hokkaido, Japan.

*This survey is for skiers who have skied the backcountry (lift- and non-lift-accessed) in Hokkaido **at least once in the past seven years** (2017/2018 northern-hemisphere winter or later).*

The survey takes most people no longer than 15 minutes to complete. In exchange for your participation, we'll send you a US\$5 Amazon gift voucher (first 200 respondents only). In addition, we'll enter you into the draw for an [Earth Hopper](#) Standard pass worth 49,800yen (US\$330), giving you up to 14 days skiing at resorts around Japan ([more details about Earth Hopper here](#)).

If you'd like to get started, please hit the 'NEXT' button.

Fine-print:

- This survey is part of a larger project to make the Hokkaido backcountry safer, commissioned by the [Hokkaido District Transport Bureau](#).
- If at any stage you would like to discontinue taking part in the survey, please close your browser.
- The survey collects no identifying information other than your email address (used only for gift-card issuing and draw-entering).
- The Earth Hopper draw and Amazon gift voucher issuing: End of November, 2024

If you have any questions about this survey in English, please contact the survey administrator [Pioneerwork](#) at hokkaidobcinfo@googlegroups.com

Anonymized data from this survey will be used in reports to be published on the [Hokkaido District Transport Bureau's website here](#).

2 実施内容

アンケート結果概要

■ 回答者属性

(性別) 男性83%、女性16% (平均年齢) 39歳

(国籍) 北米37%、ヨーロッパ24%、オセアニア24%、アジア9%、その他5%

■ 北海道でのバックカントリー経験

(回数) 1回39%、2回19%、3回以上42%

(時期) 91%が1～2月の滑走経験がある

■ 北海道バックカントリーを知ったきっかけ

口コミ57%、SNS26%、インターネットフォーラム23%、雑誌14%

■ 北海道を旅先として選んだ主な理由 (項目平均値)

※1 (当てはまらない)、2 (当てはまる)、3 (とても当てはまる) のいずれかを選択

雪質2.9、降雪量2.8、友人の勧め2.1、BC地形へのアクセスの良さ2.1 など

アンケート結果から浮かび上がった課題

● 雪崩に対する意識

外国人バックカントリースキーヤーがこれまで滑ってきた他のエリアと比べると、北海道は雪崩や滑落のリスクが低いと考えられている傾向がある。

● 情報発信の不足

雪崩情報 (北海道の各エリアをカバーするもの)、ルート標識、登山口の駐車場スペース、マナーやローカルルールなどについて「多少不十分」「とても不十分」とする回答が多い。

● 入山計画の提出の徹底

家族等に登山計画を伝える者が85%超である一方、**警察への登山届を提出していない者も約85%に上る。**

● バックカントリーに携行する装備に関する理解

ビーコン・ショベル・プローブを必ず携行「していない」者が、それぞれ1割以上存在する。

2 実施内容

■ 遭難事故状況調査（R1～R6）

過去の遭難事例を顧みて、主な発生要因を探るとともに、事例間の類似性等から傾向等を把握するため、デスクリサーチによる分析を実施した。

※別冊2 北海道におけるバックカントリースキー事故の分析結果（遭難事故状況調査）

■ **分析資料**：北海道警察による山岳遭難発生状況に関する資料（R1～R6）

雪氷災害調査チーム、日本雪崩ネットワークによる調査報告（R1～R6）

主な分析結果

- 6年間全体では、無事（58.5%）、負傷（35.2%）、死亡（6.0%）。
- **パウダーシーズン（12～2月）に全体の95%の事故が発生。**
- 日本人による事故は土日にも多くなる傾向がある一方、外国人の事故は平日に多い。
- 外国人のバックカントリー遭難者は、**日本人登山者の遭難傾向（50～70代中心）に比べて、若いのが特徴。**
- 225件中、77件でヘリコプターが出動している。
- 山ごとにとみると、スキー場がある山域において事故数が多い。
- アジア系の事故は、全て索道利用のある事故であった。
- **最も多いのは「道迷い」で全体の39.6%、ついで立木衝突（15.1%）、転倒（14.7%）、雪崩（7%）。**
- 欧米系の道迷いによる事故の割合は、他に比べて低い。
- アジア系による雪崩事故はないが、深雪にはまって動けなくなることや技量不足の割合が高くなる。
- **雪崩事故においては、風の影響が疑われるものが多い。**

2 実施内容

海外事例調査

現地山岳ガイドや研究者に、活動国・研究対象国におけるバックカントリーを取り巻く状況について、聞き取り・アンケートを実施した。

※別冊3 海外事例調査

■ **調査期間**：2024年10月25日（金）～11月3日（日）

■ **対象国**：ノルウェー、カナダ、アメリカ、オーストリア、フランス

主な調査結果

● 行政機関等における事故対策や防止活動

水資源エネルギー局が、国公道管理局、国気象研究所と連携して情報発信（一つのウェブサイト運営）を行っている。【ノルウェー】

● 雪崩情報

行政機関もしくは公的財源に基づいた雪崩情報の発信を行っている。【ノルウェー、アメリカ、オーストリア、フランス】

● 駐車場問題

調査対象国でも駐車場問題（道路、民地など）が発生しており、バックカントリーの対策を行う上で避けては通れない課題となっている。【ノルウェー、カナダ、アメリカ、フランス】

必要な知識・装備・リスク管理等の再整理

雪質や天候についての予測、装備に関する理解等、山行中に必要な知識等について、外国人のみならず、道内外の日本人バックカントリースキーヤーにも周知ができるよう、情報を精査し再整理を実施した。

※別冊4 バックカントリースキーを安全に楽しむために（必要な知識・装備・リスク管理等の再整理）

■ 目次

- | | |
|-------------------|-----------------|
| 1. 雪山に入る前に学ぶべきこと | 4. 塚原聡ガイドのアドバイス |
| 2. 雪山に入る前に準備すべきこと | 5. むすびにかえて |
| 3. 雪山の中で実践すべきこと | 6. 文献 |

■ 本稿制作にあたり参考とした資料・文献

雪氷災害調査チーム・雪崩事故防止研究会編 2022「雪崩教本」 山と溪谷社
出川あずさ・池田慎二 2017「雪崩リスク軽減の手引き」 東京新聞出版局

2 実施内容

(3) 検討会

バックカントリースキーヤーの安全確保のために、どのような対応が求められ、どのように安全啓発に関する情報を届けられるかについて、基礎調査を踏まえて検討会を開催し、関係者間で現状の共有、課題の抽出を行うとともに、抽出された課題毎の解決策を取りまとめた。

第1回

■日時・場所

2024年11月19日（火）13:30～15:30

かでる2・7 110会議室（札幌市中央区北2条西7丁目）

■次第

- ・外国人バックカントリースキーヤー・スノーボーダーの現状と課題
- ・基礎調査の実施状況について
（実態把握アンケート調査）
（海外事例調査）
（必要な知識・装備・リスク管理等の再整理）
- ・課題解決策の検討

■出席団体等

所属	職名	氏名
ニセコ雪崩調査所	所長	新谷 暁生
特定非営利活動法人日本雪崩ネットワーク	理事長	石黒 淳
	理事	出川 あずさ
北海道山岳ガイド協会	理事長	佐々木 大輔
Rising Sun Guides	Director	Andrew Spragg
	General Affairs	Yui Spragg
Whiteroom	General Manager	Ronan Maguire
名古屋大学	名誉教授	西村 浩一
北星学園大学	准教授	Robert Thomson
北海道大学大学院国際広報メディア観光学院	講師	吉沢 直
国立研究開発法人土木研究所寒地土木研究所	主任研究員	原田 裕介
羊蹄山管理保全連絡協議会 （事務局：倶知安町観光商工課観光係）	係長	西村 翔太
	主事	小熊 映以留
北海道環境生活部スポーツ局スポーツ振興課	課長補佐	柏木 邦子
	主査	古野 健太郎
北海道経済部観光局観光振興課	主幹（観光企画）	福田 勝志
	主幹（AT調整）	伊東 美弥子
北海道警察本部地域部地域企画課	指導官	宮竹 恒二
	課長補佐	作田 隆行
林野庁北海道森林管理局計画保全部保全課	企画係長	高木 理絵
環境省北海道地方環境事務所国立公園課	課長	尼子 直輝
	課長補佐	高木 丈子

2 実施内容

第 2 回

■日時・場所

2024年12月16日（月） 9:30～11:00
かでの2・7 540会議室（札幌市中央区北 2 条西 7 丁目）

■次第

- ・ 基礎調査の実施状況について
（実態把握アンケート調査）
（遭難事故状況調査（R1～R6））
- ・ ホームページ及びウェブカメラについて

■出席団体等

所属	職名	氏名
特定非営利活動法人日本雪崩ネットワーク	理事長	石黒 淳
	理事	出川 あずさ
北海道山岳ガイド協会	理事長	佐々木 大輔
Rising Sun Guides	Director	Andrew Spragg
	General Affairs	Yui Spragg
Whiteroom	General Manager	Ronan Maguire
名古屋大学	名誉教授	西村 浩一
北星学園大学	准教授	Robert Thomson
北海道大学大学院国際広報メディア観光学院	講師	吉沢 直
国立研究開発法人土木研究所寒地土木研究所	主任研究員	原田 裕介
羊蹄山管理保全連絡協議会 （事務局：倶知安町観光商工課観光係）	主事	小熊 映以留
北海道環境生活部スポーツ局スポーツ振興課	主査	古野 健太郎
北海道経済部観光局観光振興課	主幹（観光企画）	福田 勝志
北海道総務部危機対策局危機対策課	課長補佐（危機管理）	樋口 千里
	主任	宮町 直人
北海道警察本部地域部地域企画課	課長補佐	作田 隆行
	係長	菅原 佑介
環境省北海道地方環境事務所国立公園課	課長補佐	高木 丈子
	課長補佐	田畑 桂
環境省北海道地方環境事務所 支笏洞爺国立公園管理事務所	所長代理	櫻庭 祐介

開催風景（第 1 回・第 2 回）



2 実施内容

課題

●雪崩に対する意識

外国人バックカントリースキーヤーがこれまで滑ってきた他のエリアと比べると、北海道は雪崩や滑落のリスクが低いと考えられている傾向がある。

●情報発信の不足

雪崩情報（北海道の各エリアをカバーするもの）、ルート標識、登山口の駐車スペース、マナーやローカルルールなどについて「多少不十分」「とても不十分」とする回答が多い。

●入山計画の提出率の低さ

家族等に登山計画を伝える者が85%超である一方、警察への登山届を提出していない者も約85%に上る。

●バックカントリーに携行する装備に関する理解

ビーコン・ショベル・プローブを必ず携行「していない」者が、それぞれ1割以上存在する。

課題解決のための方策（事務局素案）

●ホームページ制作（英語）

（1）情報発信の内容

- 計画段階 ○装備 ○天候 ○駐車など ○行動中 ○滑走前後及び滑走中
- 地域へのリスペクト（ルールやマナーを含む） など

（2）想定するリンク

- ニセコなだれ情報 ○日本雪崩ネットワーク ○国土地理院地図
- Powder Search ○Windy ○SCW ○北海道警察登山計画書（メール用）
- 山と自然ネットワーク コンパス

●ウェブカメラ情報の提供

（1）撮影頻度

3分間隔及び動体センサーによる撮影

（2）設置場所（想定）

旭岳、黒岳、十勝岳、富良野岳、羊蹄山、五色温泉、札幌国際スキー場、キ
ロコスノーリゾート 計8か所

●ホームページ周知のためのポスター掲示

検討の経過

●第1回検討会で事務局素案を了承

●第2回検討会で実施に向けた調整

2 実施内容

ホームページ・ウェブカメラに関するご意見

- 欧米豪のスキーヤーのみならず、アジア圏のスキーヤーにも届くよう、多言語対応のウェブサイトとするべき。
- 定性的な情報だけでなく、随時情報が更新されていくものを作らないと、アクセスされない。
- 事業が終了した後にはウェブサイトが更新されないといったことのないよう、**単年度で終わらせないためにどうしていくのかというのも課題**。
- スキー場が持っているような情報が一覧で見れたりすると尚良い。
- ビギナー層・スキル不足の人達にも届くように基礎的な情報も入れた方が良い。
- **実際に山に入る人の気持ちに立った場合に、ライブカメラは大変有効なツール**。

その他のご意見

- 雪崩情報関係
 - ・ フランスやスイスでは、山域別・標高別・方位別の雪崩情報を出している。**外国人は、各国のような雪崩情報を求めている**。
- 情報発信関係
 - ・ スキーヤーは良い雪を滑りたいという思いから、雪がある風下斜面に入り込みがち。**そういった実態を踏まえた注意喚起が必要**。
 - ・ これまでの観光振興では、プロスキーヤーやインフルエンサーを起用して、北海道のパウダースノーの素晴らしさを訴える誘客が多かったが、**そういったものを作らなくても北海道に来てくれる段階に入っている**。その**予算を事故防止の啓蒙等に割り当てていくべき**。

2 実施内容

(4) 課題解決策の実践

■ ホームページによる情報発信

■ ホームページ名

HOKKAIDO BACKCOUNTRY INFORMATION (<https://hokkaidobc.info>)

■ 開設日

2025年1月15日（水）



■ 掲載内容

- ・ ビギナー層に向けた啓発（雪山での知識、入山前に行うべきこと、行動中に観察すること）
- ・ ロープの向こう側（北海道／北海道山岳遭難防止対策協議会、日本雪崩ネットワーク）
- ・ ウェブカメラ6地点（羊蹄山、ニセコ（五色）、キロロ、富良野岳、十勝岳、旭岳）
- ・ 代表的なエリアの特徴（ニセコ、余市、富良野岳、十勝岳、旭岳、黒岳、幌加内、利尻）
- ・ 天候等情報サイトのリンク（windy、SCW、Powder Search）
- ・ 雪崩情報のリンク（ニセコ雪崩情報、日本雪崩ネットワーク雪崩情報）
- ・ その他お役立ち情報のリンク（Geographica、HokkaidoWilds.org）
- ・ 登山届提出サイトのリンク（Mt.Compass、北海道警察）

■ 翻訳言語

9か国語

（英語、中国語、ドイツ語、フランス語、スウェーデン語、スペイン語、ノルウェー語、韓国語、日本語）

■ ビュー数

14,765view（2025年3月21日現在、66日間）、平均224view/日

1月15日～1月31日（17日間）：5,742view、平均338view/日

2月1日～2月28日（28日間）：5,318view、平均190view/日

3月1日～3月21日（21日間）：3,705view、平均176view/日

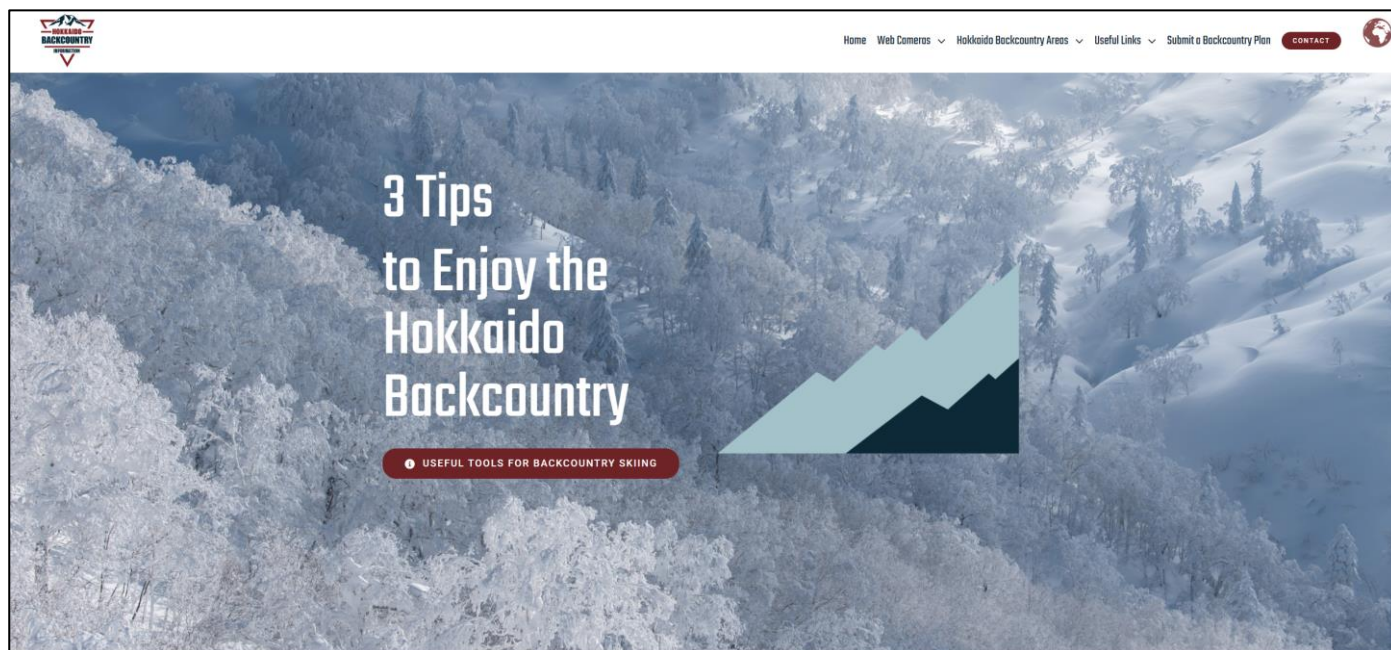
■ 認知度

態度変容調査においてヒアリングを行ったところ、約30%が本ホームページを知っていると回答



2 実施内容

トップページ



ビギナー層に向けた啓発

Tip 1

Keeping safe in the Hokkaido backcountry

Know The Risks

Navigation

There are almost no markers on backcountry trails, and they can disappear within a few minutes. Therefore, it is important to have a map and a compass. Having a compass that at least two people in your party have is also effective.

Daylight hours

Sunrise on Christmas in Hokkaido is around 7:30 am, and sunset is around 4:30 pm, meaning there are three more hours of daylight than in the main part of Japan.

Popular Routes

On the popular backcountry routes around the island, there are many people, so it is important to be aware of the positional relationship with other people.

Terrain Traps

Gullies are a common feature in Hokkaido backcountry. They are slopes where you cannot see very far ahead. On Mt. Yotei, there have been many fatal accidents in the past. Be aware of the terrain ahead of you when descending.

Visibility and Storms

It snows a lot in Hokkaido. It's not uncommon for visibility to drop to zero. You need to plan your backcountry tour carefully.

Tip 2

Things to do before you enter the Hokkaido backcountry

Gear Up

It is very important to carry the necessary equipment on the day. It is important to fully understand the equipment required for general backcountry skiing.



Tip 3

What to do in the Hokkaido backcountry

When in the Hokkaido backcountry, always observe your surroundings. Where are you on the mountain? Are snow conditions changing? How is your physical condition? Are you safe?

Know The Mountain

Get up-to-date information for the full picture

During your backcountry tour, it's important to constantly update your expectations based on what you see as well as information you gathered prior to the tour. If you can see the mountain during your approach or from the trailhead, observe the mountain carefully. You can get a lot of information, such as whether there is fresh snow on the trees, whether there is snow blown by the wind, and whether there are traces of fresh avalanches. Also, check any new snowfall at the trailhead, and compare this with the last forecast you saw. Do conditions match your expectations? Are conditions on the ground different to the forecast? Conditions vary depending on the altitude and slope direction even on the same mountain. It is important to consider hazards on a large spatial scale, taking into account temperature, wind, snowfall, solar radiation, visibility, etc.

Understand avalanche terrain and use avalanche avoidance procedures.

Avalanche terrain includes trigger points, avalanche paths, and avalanche extents. All these areas are areas where backcountry travelers are exposed to avalanche risk. When traveling in the backcountry, it is important to reduce exposure to avalanche terrain. When traveling in areas with higher exposure to avalanche terrain, minimize the number of people in your party in such areas at one time, and minimize your time in high-exposure areas. Also be aware of conditions above and below where you are.

Avalanche-prone areas

Avalanches are more likely to occur where terrain and slopes change abruptly, or beneath cornices. They tend to occur primarily on slopes with angles between 30 to 45 degrees. While pre-tour knowledge of overall backcountry conditions is important, it is crucial to pay attention to more isolated features when actually on the ground in the backcountry.

Terrain Traps

Terrain traps are areas with geographical features that increase the hazards involved with even relatively small avalanches. These include deep valleys, funnel-shaped gullies, open slopes, and obstacles such as trees or rocks.

2 実施内容

ロープの向こう側

Please also be sure to read the Hokkaido Prefectural Government's safety message in cities, "BEHIND THE ROPE," before accessing the backcountry.

滑走者への安全の呼びかけ ロープの向こう側 SAFETY MESSAGE FOR RIDERS BEYOND THE ROPE

北海道

北海道の雪山を楽しむ前に Before you enjoy the backcountry in Hokkaido

ロープの向こう側の「管理されていない斜面」に潜む危険に気づいていますか？
Do you know the dangers of "uncontrolled powder slopes"?

※ 雪崩はいつでも発生し得る。
→ 雪崩はいつでも発生し得る。雪崩はいつでも発生し得る。
→ 雪崩はいつでも発生し得る。雪崩はいつでも発生し得る。

※ 雪崩はいつでも発生し得る。
→ 雪崩はいつでも発生し得る。雪崩はいつでも発生し得る。
→ 雪崩はいつでも発生し得る。雪崩はいつでも発生し得る。

※ 雪崩はいつでも発生し得る。
→ 雪崩はいつでも発生し得る。雪崩はいつでも発生し得る。
→ 雪崩はいつでも発生し得る。雪崩はいつでも発生し得る。

1月、ビーコンなしで友人が雪崩に巻き込まれた。彼が発見されたとき、雪は腰が深かった。

In January, a friend of mine was buried in an avalanche without a beacon. It was chest-deep snow when we found him.

90%が雪崩死の原因は雪崩。深雪は足元を滑りやすくする。

90% of avalanche deaths are caused by avalanches. Deep snow makes footing slippery.

転んで膝を痛めた。助けを求めて叫んでもたがへず、戻ってきたのは、雪の音だけだった。

I fell and injured my knee. I screamed for help but the only thing I heard was the wind. I ended up surviving in a hole with 2 meters of snow.

見えない先に何がかわからない。スノーボードは急に止まれない。

No one knows what the future holds. Snowboarding suddenly stops.

綺麗な花には棘がある。美しいノースリッジの斜面や、スノーシュー地形は危険がいっぱい。

Beautiful flowers have thorns. Beautiful, untracked powder slopes have a lot of land mines at the beginning of a season.

ナチュラルパイプの深さで止まったら、水量2センチの川で泳ぐことになる。

Stopping at the bottom of a pipe is like swimming in a river with 2 degrees water.

ウェブカメラ6地点

Mount Yotei map①

02/25 13:00 -4°C 377m 3m/s →

Niseko (Goshiki) map②

02/25 13:01 -4°C 752m 2m/s →

Kiroro (Gondola Top) map③

02/25 13:00 -2°C 1182m 3m/s →

Furanodake map④

02/25 13:00 -4°C 1012m 3m/s →

Tokachidake map⑤

02/25 13:03 -3°C 1010m 3m/s →

Asahidake map⑥

02/25 13:00 -8°C 1598m 3m/s →

20

2 実施内容

代表的なエリアの特徴

Niseko Area map① The Niseko Range is close to the coast, so it receives snowfall almost every day during the season. Mt. Annupuri is accessible by lifts and welcomes many skiers, and there are many routes in the surrounding mountains. In the ski area of Mt. Annupuri, the area where you can enter the backcountry area is controlled by gates. Please read the Niseko Avalanche Information carefully and follow the instructions of the patrol when deciding whether to use the backcountry area. Goshiki Onsen, west of Niseko Annupuri, is a popular trailhead for the Niseko backcountry. There is a snowplowed parking lot in the area – make sure to use this rather than park on the road, as this gets in the way of snow-clearing work. Also, the parking lot at Goshiki Onsen is a space reserved for hot spring guests, so please do not park there. Parking space is also limited at the trailhead to Nitonupuri, so please be considerate not to get in the way of snow removal or traffic. Mt. Yotei is accessible from all directions and is the mountain visited by the most backcountry skiers in Hokkaido, but there are many avalanche terrains such as streams, and avalanche accidents occur frequently. Parking space is also limited on Mt. Yotei. It is also necessary to reduce the number of cars parked at the end of the road or on the side of the road by carpooling or using taxis so as not to interfere with the lives of local residents. In the 2024-2025 season, webcams have been installed at the Goshiki Onsen trailhead and the Makkari trailhead of Mt. Yotei. Please use them to check the weather and snow conditions before entering the mountains. See the webcams here >>>	Yoichi Area map② This area is also close to the coast and receives a lot of snowfall. Kiroro Ski Resort is located on the west side of Mt. Asari. From Kiroro Ski Resort, there are many options, such as the 1107m peak and Mt. Yoichi. The terrain, however, is complex and there are many streams, so it can be difficult to cross the streams early in the season. Careful route planning is required. If you are accessing the backcountry area from Kiroro Ski Resort, please use the gate at the top of the ski area. Some people park their cars in the parking lot of Kiroro Ski Resort and use the forest road to enter the backcountry, but this parking lot is for Kiroro Ski Resort users, so please do not cause any trouble to the ski resort. A webcam will be installed at the top of the Kiroro gondola in the 2024-2025 season. Please use it to check the weather and snow conditions. See the webcams here >>>
Furano Ski Area map③ Furano ski resort boasts high quality "Bonchi Powder" (literally "Basin Powder"). The Kitanomine Gondola and ropeway ski lift provide access to great skiing. When accessing the backcountry, please exit through the gates at the top of each slope. The slopes note that on the west side of the ridge, opposite the ski resort, may look attractive, but it is difficult to return to the slopes once you have descended. Once you reach the bottom of the slope, you will find yourself in a difficult situation, as there are long forest roads that have not been plowed and mobile phones do not work. In some places, there are many steep slopes and small streams, so there are many accidents due to slipping and falling, so please be careful.	Furano-dake/Tokachi-dake Area map④⑤ Mt. Furano is a popular backcountry destination due to the cold temperatures, quality snow, and large slopes. If you descend too far on the way back, it will be difficult to return to the trailhead, so be sure to navigate carefully. There is a parking space at the junction of roads heading to Tokachidake Onsen and Fukiage Onsen (here>>>), but the space is limited. Overflow parking obstructs traffic and snow-clearing operations, so be open to changing plans if parking space is not available. There is a large parking space in front of Hakuginso, but it is for hot spring users. Climbers should use the space on the north side, away from Hakuginso (see this image >>>). After descending the mountain, enjoy the large open-air bath and sauna at Shiroganeso. You can choose to go to Sandanyama if visibility is poor, or to Tokachidake if the weather is good. The route up Tokachi-dake very soon goes beyond the tree-line. Exercise extreme caution when visibility is poor. Snow is often thin, so beware of rocks and fall hazards while skiing. Webcams have been installed at both trailheads in the 2024-25 season. Please use them to check the weather, and the snow conditions. See the webcams here >>>

天候等情報サイトのリンク

WEATHER INFO  windy It is an excellent tool for visualizing weather forecasts. You can check the weather, temperature, snowfall, precipitation, wind speed and direction forecast for any location. You can also select MSM, which uses data from the Japan Meteorological Agency, for the forecast model, and the accuracy is 5km mesh, allowing for more detailed forecasts. WINDY.COM	 SCW This is a Japanese site that provides high-resolution weather forecasts predicted by supercomputers. It is particularly good at determining cloud cover, the movement of snow clouds, and the progression of blue skies. SUPERCWEATHER.COM	 Powder Search This is a very useful site for backcountry skiers, collecting data from AMeDAS and observation equipment from all over the country in an easy-to-read format. You can view data from 176 locations in Hokkaido. With AMeDAS data, you can check hourly temperature, precipitation, wind direction and speed, sunshine hours, snowfall, and snowfall amount, and the powder ranking function ranks snowfall amounts over 6, 12, 24, and 48 hours, allowing you to check where it snowed the most. By looking at the sunshine hours, you can also predict changes in snowfall on south-facing slopes. It is only available in Japanese, but you can check each location using Google Translate. POWDERSEARCH.JP
--	--	--

雪崩情報のリンク

AVALANCHE INFO Niseko Avalanche Information This is original information linked to Niseko rules and ski resort gate openings. It is updated every morning, so if you're skiing in the Niseko area, be sure to check it out. NISEKO.NADARE.INFO	 Japan Avalanche Network Japan Avalanche Network This site provides avalanche bulletin in international standard format for five mountain regions in Japan. In Hokkaido, avalanche bulletin for the Shiribeshi area (Niseko, Yotei, Mt. Shiribetsu, Mt. Yoichi) is released every morning. NADARE.JP
--	--

2 実施内容

その他お役立ち情報のリンク

USEFUL INFO



Geographica

Map app "Geographica" is a free map app. When you select the layer called Avalanche Slope Type B, it is color-coded as 25-30 degrees (yellow), 30-35 degrees (orange), 35-45 degrees (red), 45-54 degrees (brown), and 55 degrees or more (gray), which is very useful for understanding avalanche terrain.

GEOGRAPHICA.BIZ



HokkaidoWilds.org

This site, run by Sapporo resident Robert Thomson and his friends, introduces outdoor activities in Hokkaido. It introduces many backcountry ski routes and provides information on things to be careful of and how to enjoy the area more safely.

HOKKAIDOWILDS.ORG

登山届提出サイトのリンク

SUBMIT A BACKCOUNTRY PLAN

Creating and submitting a mountain climbing plan is the first step in preventing accidents. Make a plan that is appropriate for your and your companions' physical strength and skills. Submit the plan to the police station as well as to your family and workplace.



TOZAN-TODOKE

This is an online mountaineering registration system operated by the Mountain Safety Network Council in cooperation with prefectural police. Registration can be done in English, Korean, and Chinese. By inputting the entrance, route, destination, etc., it will be a great help in finding you even if you get lost in places where there is no mobile phone reception.

www.mt-compass.com >



HOKKAIDO POLICE

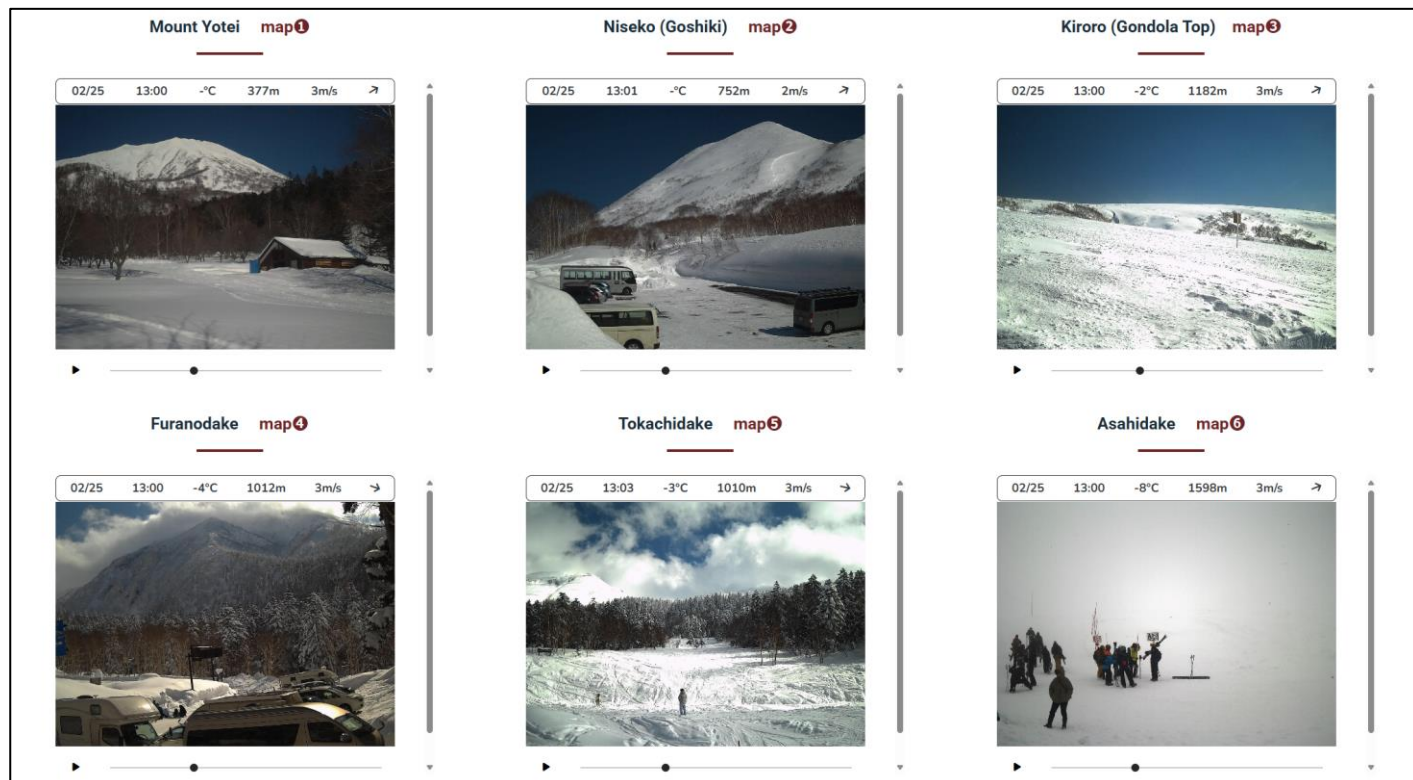
This is the Hokkaido Police mountaineering registration website. Only available in Japanese.

www.police.pref.hokkaido.lg.jp/consult/yama-mail/tozan_mail.html

2 実施内容

ウェブカメラによるおおよその入山者数の把握

- 調査場所：6地点（羊蹄山、ニセコ（五色）、キロロ、富良野岳、十勝岳、旭岳）
- 調査期間：2025年1月25日（土）～2月2日（日）、2月8日（土）～2月16日（日）
※計18日間



調査場所	延べ人数	日平均人数	備考
羊蹄山	420人	23.3人	真狩登山口に設置。この他にも、半月湖、京極、喜茂別等複数の登山口あり。
ニセコ(五色)	825人	45.8人	アンヌプリ及びイワオヌプリへの入山者を捕捉。
キロロ	2,286人	127.0人	この他にも、ベースエリアやコース脇からのバックカントリーにアクセスする入山者が存在。
富良野岳	659人	36.5人	駐車スペースとなっている地点は毎日ほぼ満車で、路上駐車で溢れかえっている。路上駐車する入山者の数は、左記に含まれていない。昨シーズン以前も同様の状態。
十勝岳	1,276人	70.9人	十勝岳及び三段山への入山者を捕捉。
旭岳	3,709人	206.1人	装備を携行せず滑走区域外へ出ていく者が1～2割存在。

いずれの箇所も、8～9割は外国人の入山者と思われる。また、体感として、昨シーズンまでは平日に外国人、土日祝日に日本人の割合がそれぞれ多くなる傾向にあったが、今シーズンは土日祝日も外国人の割合が多いように見受けられた。

2 実施内容

■ 周知用ポスターの掲出

スキー場や新千歳空港、鉄道駅等に、QRコードを掲載したポスターを掲出し、ホームページの周知・誘導を図った。

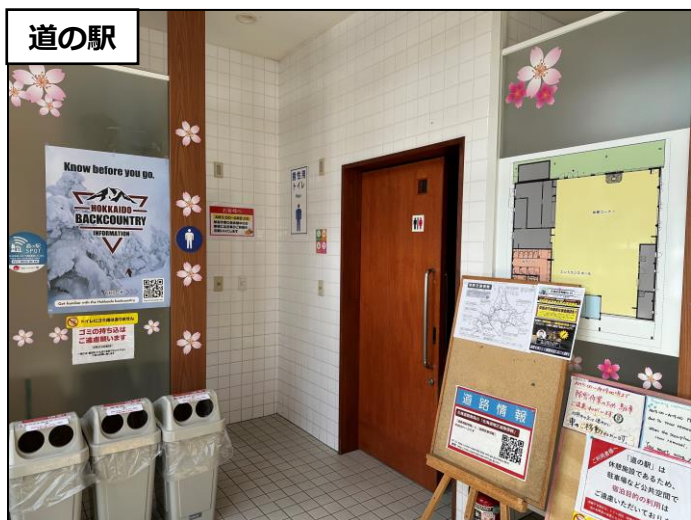


2 実施内容

■ 設置箇所

スキープロモーション協議会構成スキー場、新千歳空港、JR鉄道駅、道内のスキーショップ、コンビニエンスストア、温泉施設、道の駅、札幌レンタカー協会加盟店 等
計52か所

■ 設置風景



2 実施内容

■ 周知用ステッカーの配布及び掲出

ホームページの周知・誘導のため、外国人バックカントリースキーヤーへの配布等を行った。

■ 配布箇所

スキープロモーション協議会構成スキー場、北海道山岳ガイド協会、外国人ガイドカンパニー、道内のスキーショップ 等 計1,150部

■ 掲出箇所

北海道ハイヤー協会所有車両 計1,400部



■ 配布・掲出風景



2 実施内容

(5) 態度変容調査

■ 調査概要

「HOKKAIDO BACKCOUNTRY INFORMATION」の公開によって、外国人バックカントリースキーヤーの安全意識が変化したかを検証するために、現にバックカントリースキーに訪れている外国人に対して、アンケート調査を実施した。※別冊5 外国人BCスキーヤーに関する実態把握調査（2回目） アンケート分析（態度変容調査）

■ **調査期間**：2025年1月29日（水）～30日（木）、2月11日（火）～12日（水）

■ **調査地点**：吹上温泉白銀荘前駐車場（1/29、2/12）

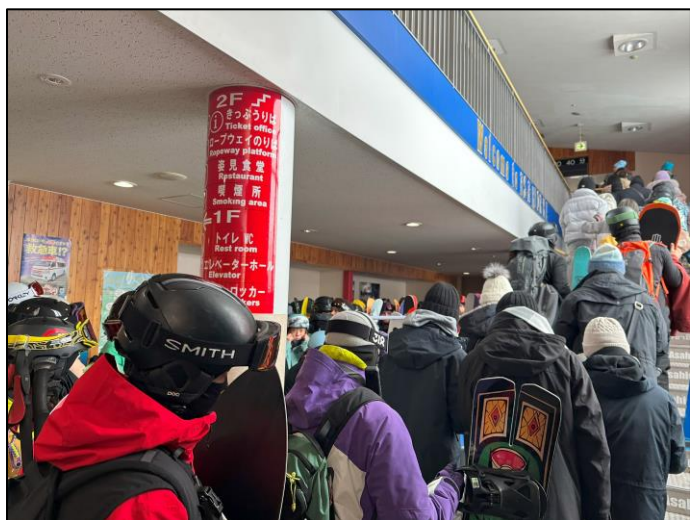
旭岳ロープウェイ山麓駅（1/30、2/11）

■ **調査対象**：調査地点において、スキー／スノーボードを行っていた外国人

■ **調査手法**：Google Formsを用いたウェブアンケート

■ **有効回答**：185名（目標値：100名）

■ 調査風景



2 実施内容

■ アンケート結果概要

■ 回答者属性

（性別）男性66%、女性32% （平均年齢）35歳

（国籍）北米44%、ヨーロッパ43%、オセアニア8%、アジア4%、その他2%

■ 北海道でのバックカントリー経験

（回数）1回68%、2回21%、3回以上12%

■ 北海道バックカントリーを知ったきっかけ

口コミ63%、SNS38%、インターネットフォーラム23%、雑誌9%

■ 北海道を旅先として選んだ主な理由（項目平均値）

※1（当てはまらない）、2（当てはまる）、3（とても当てはまる）のいずれかを選択

雪質2.9、降雪量2.9、友人の勧め2.4、BC地形へのアクセスの良さ2.0 など

アンケート結果から浮かび上がった課題等

● 雪崩に対する意識

実態把握調査同様、外国人バックカントリースキーヤーがこれまで滑ってきた他のエリアと比べると、北海道は雪崩や滑落のリスクが低いと考えられている傾向がある。

● 情報発信の不足

雪崩情報（北海道の各エリアをカバーするもの）、ルート標識、マナーやローカルルールなどについて「多少不十分」「とても不十分」とする回答が多い。

※駐車場スペースに関する情報については、駐車スペースが整備された入山口での調査のため、良回答の傾向が高かった。

● 入山計画の提出の徹底

警察への登山届を提出していない者は約88%に上る。

● バックカントリーに携行する装備に関する理解

ビーコン・ショベル・プローブを必ず携行「していない」者が、実態把握調査ではそれぞれ10%以上存在したが、今回調査では約5%程度であった。

2 実施内容

(6) 有識者検証

■ 実施概要

課題解決策の実践及び態度変容調査の実施について、それぞれの有効性とそこから導き出される課題を客観的に分析するため、有識者検証を実施した。

■ **検証項目**：ウェブサイトによる情報発信

ウェブカメラによる入山者数の把握

態度変容調査

■ **実施者**：北星学園大学准教授 Robert Thomson 氏

北海道大学大学院講師 吉沢 直 氏

■ **選定理由**：バックカントリーを活動領域・研究対象としていること

■ 有識者プロフィール



Robert Thomson 氏

- ・ ニュージーランド人、HokkaidoWilds.org主催
- ・ 北星学園大学准教授
- ・ 北海道アウトドアフォーラム運営委員
- ・ 大雪山国立公園連絡協議会構成員



吉沢 直 氏

- ・ 長野県白馬村出身
- ・ フランス・グルノーブルアルプ大学高山地理学部にて、バックカントリースキーに関する研究で修士号を取得。
- ・ その後、筑波大学にてインバウンド・スキー観光に関する研究で博士号取得。
- ・ 北海道大学大学院メディアコミュニケーション研究院（観光学高等研究センター）常勤講師

2 実施内容

2025 年 3 月 12 日

外国人バックカントリースキーヤーの安全確保に向けた検証事業 の有識者検証



作成者

北海道大学大学院 国際広報メディア観光学院
講師 吉沢直

北星学園大学 文学部英文学科
准教授 Robert Thomson

2 実施内容

1. 本事業における具体的施策

A. ホームページによる情報提供（天候・ライブカメラ設置）

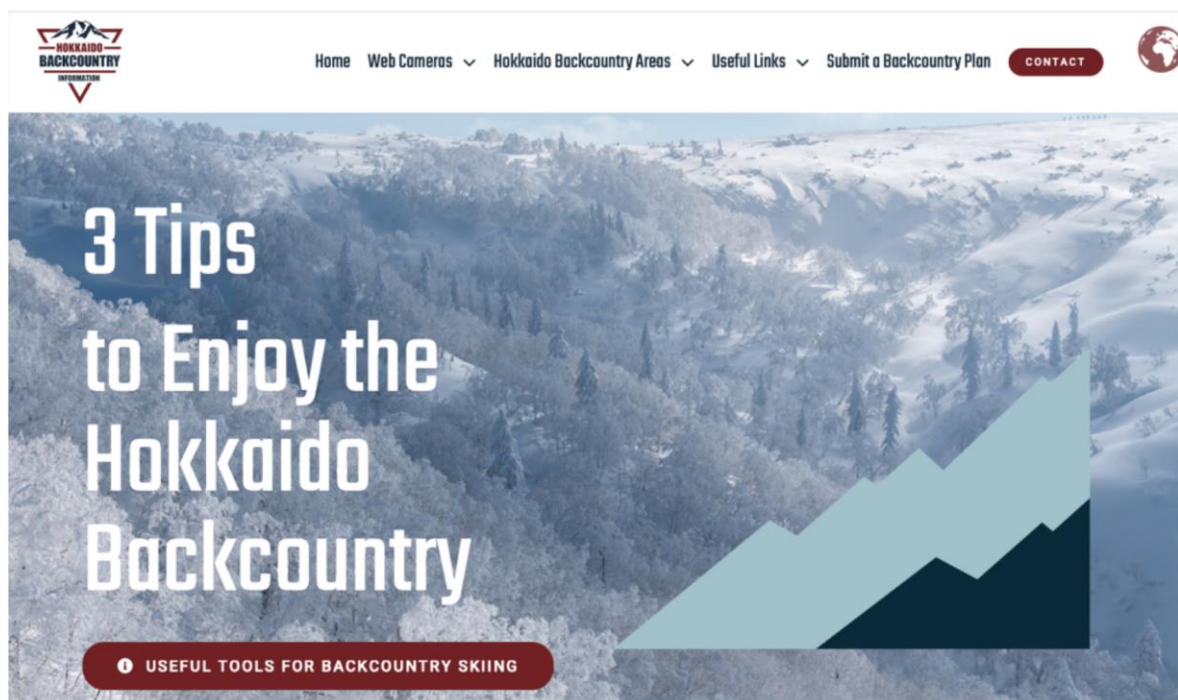


図1 ホームページの様子

2025年1月15日にWebサイト「HOKKAIDO BACKCOUNTRY INFORMATION (<https://hokkaidobc.info/>)」を公開し、外国人スキーヤーに対する情報提供を行った。具体的には1)バックカントリーに必要な基本情報、2)主要な山域のウェブカメラおよび天候情報、3)主要なエリア(ニセコ/富良野/旭岳など9エリアの地域概要)、4)気象情報(雪崩情報や天気予報)へのリンク集、5)GPSアプリやルート掲載サイトのリンク集、6)登山届のオンライン提出方法などが掲載された。

B. 主要山域におけるバックカントリー入山者数の把握（モニタリング）

設置したウェブカメラの静止画内(3分に1回撮影)の人数を目視にて確認し、バックカントリー入山者の人数把握を行った。調査を実施したのは全6箇所であり、羊蹄山(真狩登山口)、ニセコ(五色)、キロロ山頂、富良野岳、十勝岳、旭岳であった。モニタリング期間は2025年1月25日から2月2日および2月8日から2月16日(計18日間)である。

C. 態度変容調査（アンケート）

北海道にバックカントリー目的で来訪する外国人スキーヤーの実態を把握し、ホームページによる情報提供(課題解決 A)の効果検証をするために、基礎調査で行った実態把握アンケート調査に即した形で、態度変容調査(実地)を実施した。

実地アンケートの前段となる実態把握アンケート調査(第1期間)は、2024年10月24日から11月28日の日程で実施し、これまで北海道でバックカントリーを行った経験のある外国人の実態を把握した。具体的には、過去7年間に北海道でバックカントリーを行っ

2 実施内容

た外国人の属性、技術レベル、リスク意識や安全行動、北海道を知ったきっかけなどに関して、ウェブアンケートにて尋ねた。その結果、491 件の有効回答を得た。

態度変容調査（第 2 期間）は、ホームページによる情報提供（課題解決 A）の実施を踏まえて、旭岳ロープウェイ山麓駅（旭岳）、吹上温泉白銀荘前駐車場（十勝岳、三段山）にて、計 4 日間、対面アンケートを実施した。その結果、185 件の有効回答を得た。その後、第 1 期間の回答者と第 2 期間の回答者との間にリスク意識、安全行動などにおいて変容があったかを検証した。

2. 課題解決手法の成果

A. ホームページによる情報提供（天候・ライブカメラ設置）

ホームページには掲載期間(1 月 15 日ー3 月 2 日)に合計 11,599 ビューを獲得した。これは 1 日あたりで 255 ビューである。その国別のリーチの概要を図 2 に示す。

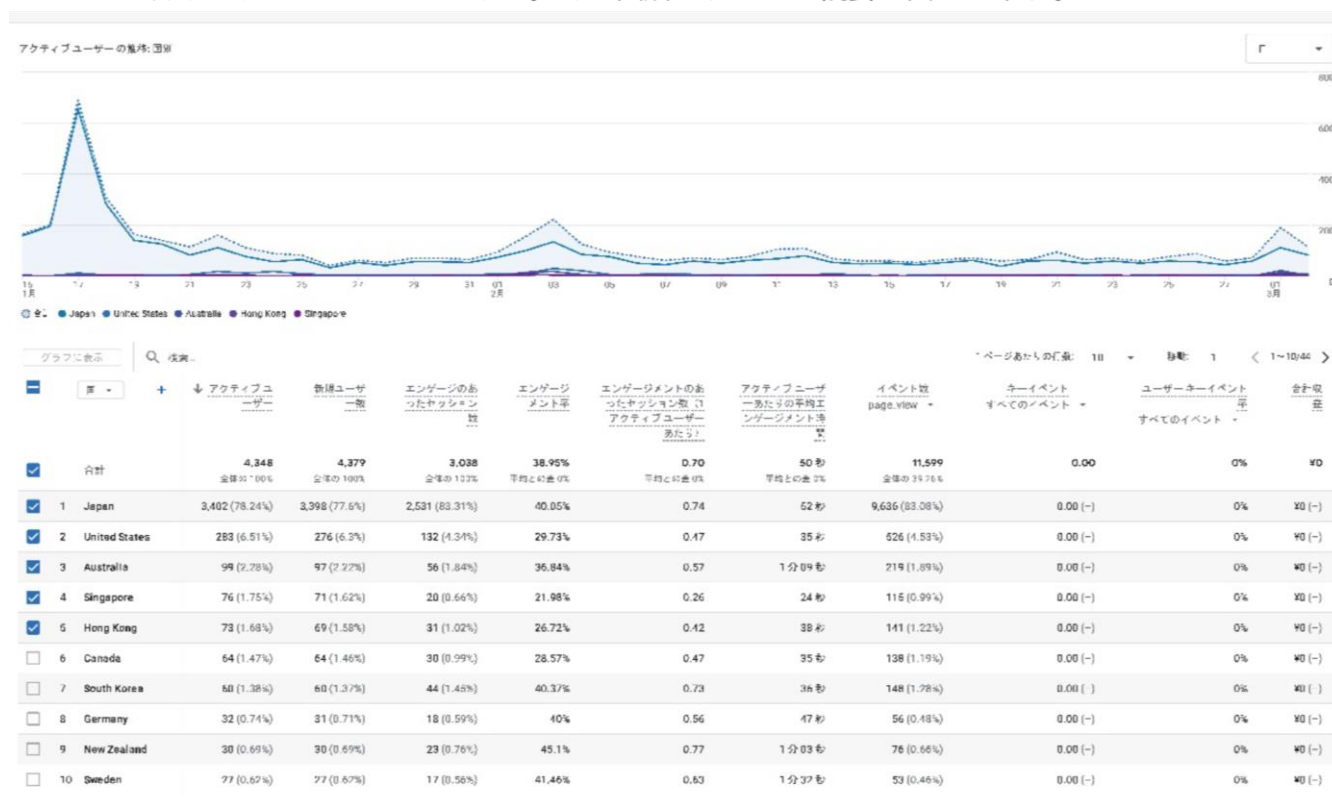


図 2 ホームページリーチ (国別)

右上の国別の閲覧数は IP アドレスに基づいており、日本からのアクセスが多い。ただし訪日外国人が、日本で取得した SIM カードや、日本国内の Wifi を使うと Japan としてカウントされるために、出身国別の利用者数とは異なる数値である。

一方サイト訪問者が使用するブラウザの言語別(図 3)でビュー数を見てみると、日本語のブラウザでアクセスしている利用者が最も多く、全体のページビュー数 (11,599 ビュー) の 62% (7,179 ビュー) を占めていた。その残りの 38% (4,420 ビュー) は日本語以外の言語のブラウザである。このことから、およそ 4 割のビューは外国人であることが推測できる。このことから、本ホームページは外国人スキーヤーのみならず、日本人

2 実施内容

にも有用なホームページであったと考えられる。



図3 ホームページリーチ（ブラウザーの言語別）

B. 主要山域におけるバックカントリー入山者数の把握（モニタリング）

モニタリング期間の18日間に、11,964人の入山が確認され、1日あたりの平均入山者数は665人であった。その入山者数の推移を図3に示す。

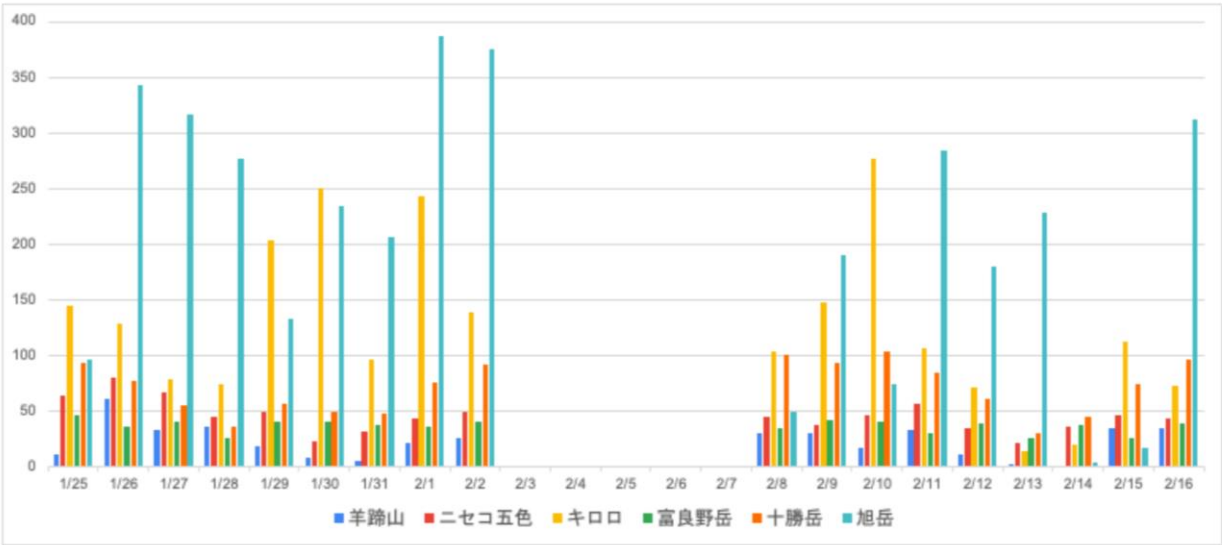


図4 主要山域におけるモニタリングの結果

2 実施内容

結果として、各山において入山者数に大きな差異がある点(1日あたりの平均バックカントリー入山者数は羊蹄山=23.3人、五色温泉=45.8人、キロロ=127.0人、富良野岳=36.5人、十勝岳=70.9人、旭岳=206.1人)が明らかになった。これをみると、キロロ・旭岳などスキー場からの入山が多いことがわかる。また、その入山者数において日毎の変動幅が大きいことがわかった。これは、天候や雪質、雪崩リスクが影響し、各スキーヤーが意思決定をした結果、生じていると考えられる。

C. 態度変容調査（アンケート）

第1期間(Web)と第2期間(現地)を比較すると、回答者の行動や意識に改善と悪化の両面が見られ、ホームページ掲載の前後において、明確な変化は確認されなかった。両時期の調査において、ほぼ100%の回答者が「将来も北海道でバックカントリースキーをしたい」と回答し、北海道のバックカントリーでスキーをする主な動機は「雪の質と量の良さ」であった。

安全行動の面では、第2期間にガイド利用者およびガイドなしで滑走する人が増加傾向にあり、一方で「ガイドを使うときも使わない時もある」と回答していた人が減っていた。また北海道のバックカントリー課題としては、「雪崩情報の不足」が依然として指摘された。第2期間の回答者は、積雪テストや計画の共有頻度が減少した一方、安全装備の携行率が上昇した。また、エリア選択では、第1期間と比較し、「情報の入手しやすさ」や「アクセスのしやすさ」を重視する傾向があり、「雪崩リスク」や「天候」の重要度は低下していた。

第1,2期間のサンプルを合わせて、追加分析としてリフトアクセス（サイドカントリー）と非リフトアクセスのスキーヤーを比較したが、非リフトアクセスのスキーヤーの方が経験豊富で雪崩対策の訓練受講率が高く、積雪テストの実施頻度も高かった。さらに、安全装備の所有率が高かった。

3. 課題解決手法の有効性と課題

A. ホームページによる情報提供（天候・ライブカメラ設置）

★有効性

● 発信者が「公的機関」という信頼感

公的機関である北海道運輸局が情報発信者ということには、大きな意味があるだろう。公的機関による情報発信は利用者からの信頼度が高く、今後、多様な情報周知に利用できる可能性がある。また情報発信のみに留まらず、「北海道は安全に配慮した健全なデステイネーションである」というイメージ形成や評判にも繋がるだろう。そうした取り組みが、結果として北海道への再訪者の増加、地域経済への貢献にもつながるだろう。

● ライブコンテンツの提供

ウェブカメラのライブフィードにはリピート閲覧者が多かった。ホームページ初回閲覧時に注意喚起を読まなかった場合でも、2回目以降の閲覧で読む機会が増えたり、再確認する可能性が高まる。つまり、ユーザーの行動判断をリアルタイムに支援する、ユーザーにとって価値の高いコンテンツを提供することで、サイト全体の認識や信頼を向上させ、より多くのユーザーが注意喚起を読むようになるだろう。

2 実施内容

● 多言語表示による伝わりやすさ

ホームページでは英語・日本語に加えて7言語への翻訳が用意されており、多くの外国人にとって読みやすいホームページになっていた。今後、北海道のバックカントリーにアジアからの訪問増加が想定される中で、多言語対応は重要である。また、特記すべきこととしては、英語や日本語以外に利用が最も多かった言語は韓国語であった。

★課題

● 閲覧がトップページに留まる傾向

下にスクロールしてみれる部分を含むトップページ表示回数は、合計 10,135 回であった。一方で、クリックして次のページに進む安全対策 Tips1, 2, 3 ページの合計表示回数は合計 758 回に留まった。Tips ページも多くの利用者に閲覧して欲しかったために、トップページに注意喚起のコンテンツを掲載するなど、サイトのデザインに工夫が必要である。

B. 主要山域におけるバックカントリー入山者数の把握（モニタリング）

★有効性

● 日本国内初のバックカントリー入山者のモニタリング実施

安全対策や適切なキャパシティの方針決定の上で、現段階でどの程度の人がバックカントリーを行っているかを測定することは非常に重要である。本取り組みは日本国内ではじめて複数山域において人数を計測したものであり、今後、入山人数を利用して、事故の発生確率を算出したり、天候や曜日による入山者数の確認をすることも可能である。

★課題

● 人数計測における技術的問題

技術的な課題としては Web カメラによる写真確認だと、入山者が日本人か外国人であるかの判別がつかなかった点が指摘できる。また、カメラに雪がつくことにより、1 時間以上の間測定できなかった日が 108 測定日のうちで 14 測定日あり、入山数概数は確認できたが、その正確性には課題が残る。また本検証は 6 地点での計測であったが、実際には異なる地点からの入山もある。より詳細な人数の把握ができるような計測を行う必要があるだろう。

● 更なるモニタリングの必要性

今後のさらなる検討の余地としては、適切なキャパシティの把握が必要だろう。どのぐらいの人数が入ると環境負荷の問題が生じるのか、入山者が混雑していると感じるのかなどについての検討が必要である。また、現在ブラックボックスとなっている山中での意思決定過程や、GPS の分析を行うことで、更なるバックカントリー実践者の行動理解につながるだろう。

C. 態度変容調査（アンケート）

★有効性

● 貴重な入山者属性データ

北海道における外国人バックカントリースキーヤーの基本属性や意識を把握できた。これまではインバウンド観光のニッチセグメントである「外国人バックカントリースキーヤー」の属性を把握できていなかったために、今後の情報発信におけるコンテンツのターゲットや、意識改善の基準となるデータとして活用が期待できるデータを取得することができた。

2 実施内容

● スキー場索道利用と非利用との差

態度変容調査の主な目的ではなかったが、リスク意識や安全行動に関して、索道を利用するサイドカントリースキーヤーと、非利用のスキーヤーとの有意な差があったことは、今後の安全対策におけるターゲティングに大きなヒントになるだろう。

現在のバックカントリースキーに関する注意喚起などはスキーヤーの種類と関係なく、画一的な内容になっている。効果的な公共コミュニケーションのためには、オーディエンスのセグメンテーションの特性に合わせる事が非常に重要であり、北海道のバックカントリーにおいても、実践者の性格に合わせた情報発信の必要であると考えられる。例えば、索道利用（サイドカントリー）と索道非利用のスキーヤー別に情報を発信する必要があるだろう。

★課題

● サンプルの代表性

今回の態度変容調査の最も大きな課題は、既に安全意識が高い回答者が多かった可能性があり、バックカントリースキーヤー全体の母集団を代表しない可能性があることにある。例えば、ウェブアンケートの参加経路に関しては、78%（N = 381）の回答者は、北海道のバックカントリーの情報を発信するウェブサイトやフォーラムでの投稿であったため、既にリスク意識が高く、情報収集に長けたスキーヤーへアンケート参加が促され、サンプルの偏りが生じた可能性がある。将来の実態把握調査では、積極的に情報を求めようとしないバックカントリースキーヤーの意識を調査する工夫が求められる。

4. 総合的評価と残された課題

今や「Hokkaido」は、世界のスキーヤーやスノーボーダーの憧れの地である。「降りやまない雪」、「無重力を感じるほどに軽いパウダー」、SNSや動画サイトでHokkaidoを検索すると、そんな動画や写真が溢れている。そして、そのほとんどはスキー場内で撮影されたものではなく、管理されていないバックカントリーで撮影されたものである。また、スキー場および北海道観光のプロモーションムービーにおいても、バックカントリーにおけるツリーラン滑走の場面が多く用いられる。そうした状況下、北海道を訪れる外国人スキーヤーは、バックカントリーを求めて北海道に来ているといっても過言ではない。

2024-2025年のシーズンも外国人ないし日本人のバックカントリー遭難の様子が例年にない頻度でニュースで報じられている。もちろんバックカントリーは個人の自己責任に基づく活動であり、遭難者の無謀な行動が非難されるべき時もある。しかし、北海道のバックカントリーに強く結びついたスキーのイメージを作り、それをういた観光プロモーションを行うステークホルダーにも、その責任があるのではないだろうか。

今後もアジアでのスキー文化の更なる発達、全世界的な気候変動によるパウダースノーの希少化が予見される中で、北海道のバックカントリーは、更に注目が高まり、重要な観光資源になっていくことが期待される。北海道で起こるバックカントリー事故の責任を個人のみに押し付けるのではなく、北海道全体または日本全体の社会問題として取り組んでいく必要がある。

そうした中で、本事業は北海道のバックカントリーに関わる多様なアクターがつながり、共に安全対策に取り組む、初の取り組みであった。本事業の受託事業者である株式会

2 実施内容

社 Pioneerwork と、その協力団体である株式会社アンドカムイおよび北海道山岳ガイド協会が中心となり、北海道庁、地方自治体、北海道警察、雪崩事故防止団体、大学やその他関連団体など多様なステークホルダーが関わりながら問題を認識し、上述した情報発信および現状把握に取り組むことができた。6ヶ月という短期間の事業にも関わらず、これだけ多くの組織が積極的に連携し、広域デスティネーションとしてのバックカントリーの安全対策の第一歩を踏み出せたと言えるだろう。

一方で、本事業を通して更なる課題もみえてきた。まず北海道で行うバックカントリーの安全対策の主体がどの組織や人になるのかという点である。北海道運輸局はプロモーション、スキー場は索道運営とスキー場管理、ガイドはガイド業務、道警救助隊は救助活動であり、北海道でのバックカントリーの安全対策を進めるまとめ役ではない。また、自然の山を活動域とする本スポーツの性質上、山にアクセスするための道路・駐車場問題は道路管理部門、山の管理（国有林、道有林）に関する問題は森林管理部門、国立公園・国立公園に関することは公園管理部門、その他マナー問題や地域コンフリクトを所管する部門など、バックカントリーを取り巻く課題を解決するためには、行政組織において組織横断的な対応が求められる。今後、継続して安全対策のみならず、包括的なバックカントリーを取り巻く環境の整備を進めていくためには、これらの組織を結びつけ、継続してこの社会課題に取り組む組織や人が必要になるだろう。

また、資金的な持続可能性も大きな課題である。また本事業の事業期間は6ヶ月であり、現在のところ、来年度以降に継続した取り組みができる予算がついていない。ホームページの情報発信も、継続的な管理や更新が必要であるが、その体制が失われてしまう点は非常に残念である。民間企業にとって、バックカントリーに関する対策を進める事業の収益性は低く、ビジネスとして本事業に取り組むことは困難である。そうした中で、考える持続可能な形態としては、「行政が対策の主体になる」もしくは「公的財源により民間企業・組織に委託する」かたちであろう。

今後も本事業で得ることができたホームページや基礎データ、人的ネットワークが継続的に活用され、北海道におけるバックカントリーの対策を進めていくことが強く求められる。

2 実施内容

(7) 事業報告会

■日時・場所

2025年3月19日（水） 9:30～11:30

HOKKAIDO×Station01（札幌市中央区北5条西5丁目） ※オンライン視聴併用

■次第

- ・ 本事業の取組報告
- ・ 【トークセッション】

北海道におけるバックカントリーのこれまでとこれから

■出席団体等

出席者数：80名（うち50名がオンライン参加）

自治体：28名、観光協会・NPO：9名、事業者：21名、国：15名、その他：7名

■パネリストプロフィール



北海道山岳ガイド協会 理事長 佐々木 大輔 氏

- ・ ガイド盤溪代表、日本山岳ガイド協会理事、国際山岳ガイド、雪氷災害調査チーム
- ・ 20歳代からエクストリームスキーヤーとして世界各地の大会を転戦。同時に、北海道の仲間たちとデナリ(2000年)、北千島(2001年)、グリーンランド(2003年)、パタゴニア(2007年)などにシュプールを刻む。



北海道バックカントリーガイドズ 代表 塚原 聡 氏

- ・ 北海道山岳ガイド協会副理事長、雪氷災害調査チームガイド部門代表
- ・ 1998年よりガイド活動を開始。バックカントリー黎明期より北海道の山々を開拓し、年間100日以上を雪山で過ごす。現在は赤井川村に拠点を移し、ガイド業務のほかスキーガイド検定員、雪崩や雪山でのリスクに関する啓蒙活動も行う。



株式会社New KRH グレンデマネジャー 一條 一人 氏

- ・ キロロスノーワールド パトロール副隊長
- ・ 1995年東海大学工学部電子工学科卒業。大学時代に苗場でインストラクターのアルバイトをしてる時に、コース外のチェックを行うパトロール隊の仕事にあこがれる。1998年より斑尾東急リゾートタングラムでパトロール業務を開始。2001年にキロロに移り2008年より現職。

2 実施内容

■案内文

令和7年2月21日

関係各位

株式会社 Pioneerwork
(北海道運輸局調査事業受託事業者)

「外国人バックカントリースキーヤーの安全確保に向けた検証事業」
事業報告会の開催について

時下、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

今年度、北海道運輸局にて実施いたしました「外国人バックカントリースキーヤーの安全確保に向けた検証事業」においては、滑走者の安全確保と満足度向上を目的として、安全対策を切り口に課題解決に向けた取組みを進めてまいりました。

つきましては、本事業の取組報告を行うとともに、バックカントリースキーヤーの安全確保に関する課題を改めて整理し、今後の皆様の取組に活かしていただけるよう、下記のとおり事業報告会を開催いたします。

年度末のお忙しいところは存じますが、多くの関係者の皆様のご参加をお待ちしております。

記

1 日時
令和7年3月19日(水) 9:30～

2 会場
HOKKAIDO×Station01
(札幌市中央区北5条西5丁目1番地5 JR GOGO SAPPORO 6階)

3 内容

(1) 本事業の取組報告

(2) 【パネルディスカッション】

(仮題) 北海道におけるバックカントリーのこれまでとこれから

パネリスト: 北海道山岳ガイド協会 理事長 佐々木 大輔 氏
北海道バックカントリーガイドズ 代表 塚原 聡 氏
他1～2名の参加を予定

<パネリストプロフィール>



佐々木 大輔 (1977年北海道生まれ)

・ガイド監修代表、北海道山岳ガイド協会理事長、日本山岳ガイド協会理事、国際山岳ガイド、雪氷災害調査チーム
・20歳代からエクストリームスキーヤーとして世界各地の大会を転戦。同時に、北海道の仲間たちとデナリ(2000年)、北千島(2001年)、グリーンランド(2003年)、パタゴニア(2007年)などにシュプールを刻む。



塚原 聡 (1969年北海道生まれ)

・北海道バックカントリーガイドズ代表、北海道山岳ガイド協会副理事長、雪氷災害調査チームガイド部門代表
・1998年よりガイド活動を開始。バックカントリー黎明期より北海道の山々を開拓し、年間100日以上を雪山で過ごす。現在は赤井川村に拠点を移し、ガイド業務のほかスキーガイド検定員、雪崩や雪山でのリスクに関する啓蒙活動も行う。

4 参加範囲

道内各市町村、観光協会、スノースポーツ関係団体など

5 オンライン視聴

現地へのご参加が困難な場合には、オンラインでの視聴も可能です。

出欠のご連絡にて、オンライン視聴を希望する旨お申し出ください。別途視聴方法についてご案内いたします。

6 出欠のご連絡について

別紙により、令和7年3月10日(月)までに、担当まで電子メールによりご回答ください。

<担当者連絡先(受託事業者)>

株式会社 Pioneerwork

電話:

Email:

■当日風景



2 実施内容

■主なトークセッションテーマ

- ・北海道バックカントリーの歴史
- ・当時の背景、スノー業界の動き、装備の変遷、客層の変化
- ・スキー場における現状と課題
- ・これからの北海道バックカントリーのあり方など

参加者アンケートでのご意見

▶バックカントリーにおける課題

- ・今後対策の旗振り役をどの団体が担うか
- ・バックカントリーは観光資源の一つであるが、遭難対策のほか公共施設の利用、交通安全対策など、課題・担当部署も多岐にわたり、頭を取る部署が決まっておらず取り組みがなかなか進まない
- ・就業ビザなし・もしくはツーリストビザの従業員によりガイド業を営む会社の増加
- ・索道利用アクセスの場合において、ガイドについてくる一般人の増加
- ・外国人の情報交換の量の増加による間違った認識や行動パターン
- ・誰もが簡単にパウダースノーを滑れると誤認するような行政等のPRの仕方
- ・自然環境が荒れること

▶課題解決のために必要だと考える取組

- ・対応、対策を決定できる立場の皆さんによる分野横断的な協議の場が必要
- ・違法ガイド及びガイド会社の摘発
- ・「にわかBC客」が山に入らぬようゲートを困難な位置に設置、安全対策義務の周知
- ・自然環境を荒らさないために、立入制限をかける
- ・多くの登山口にライブカメラを設置（コンディションに関する事前情報の入手は、バックカントリーでの活動を行う上での状況判断の根幹となるので、情報の量、質ともに多い方がよい）

▶行政機関等に求めるもの

- ・ビラ配りやゆるキャラを利用したアナログ活動ではなく、オンラインを活用した安全啓蒙活動
- ・登山届をもっとわかりやすくできる提出できる様な工夫（外国語対応含む）
- ・今回調査した以外のエリアでの実態調査
- ・スキー場が今後対策に取り組む際の行政からの支援体制の強化

3 報道・雑誌等での事業掲載

(1) 新聞紙面

掲載紙	掲載日	タイトル
北海道新聞	2024年11月20日	外国人バックカントリー遭難防止 運輸局がサイト開設へ
北海道新聞	2025年3月20日	バックカントリーの外国人 8割 登山計画提出せず
読売新聞	2025年3月27日	「道内雪山低リスク」6割 外国人意識調査 実際は死傷事故も

(2) テレビ放送

放送局	放送日	タイトル
札幌テレビ放送 (STV)	2025年3月19日	遭難者数が過去5年間で最多 バックカントリーの安全対策 8割以上が外国人観光客…北海道
北海道文化放送 (UHB)	2025年3月19日	“9割が外国人”バックカントリーで遭難 …72人のうち61人(1～2月) 【北海道】-道運輸局がホームページ開設で注意喚起
日本放送協会 (NHK)	2025年3月19日	外国人のバックカントリースキー 関係者の会議で実態を報告
北海道文化放送 (UHB)	2025年3月20日	雪崩に巻き込まれた際に使う装備 「常に携行していない」1割以上… 北海道内の“バックカントリー”実態調査—2025年の遭難者72人のうち “約9割外国人” 北海道運輸局の検証事業報告会

(3) インターネットTV

掲載元	配信日	タイトル
ABEMA ※ABEMAヒルズ	2025年2月25日	スキー・スノーボード目的の外国人が 続々 懸念される “外国人のバックカントリー遭難事故”

3 報道・雑誌等での事業掲載

(4) ウェブ記事

掲載先	掲載日	タイトル
The Japan Times	2025年2月1日	First official survey set to change backcountry Hokkaido skiing
時事ドットコム	2025年2月7日	外国人バックカントリースキーヤーの安全確保に向けた取り組み
Travel Journal Online	2025年2月24日	外国人のバックカントリースキーに注意喚起 北海道運輸局、事故防止へ特設サイト
トラベルボイス	2025年3月3日	北海道運輸局、訪日客向けにバックカントリースキーの安全啓発サイトを立ち上げ、3つのポイントを提示

(5) 雑誌

雑誌名	掲載日	タイトル
BACKCOUNTRY	2025年3月中旬	Contours: Hokkaido -Responsible Recreation-

(6) その他（情報掲載されたウェブサイト）

掲載先
日本政府観光局（JNTO）
北海道庁
北海道観光機構

4 事業のまとめ

※本項及び次項においては、便宜的に次のとおり整理する。

	索道利用	索道非利用
スキー場コース外	サイドカントリー	—
スキー場外	バックカントリー	バックカントリー

（１）外国人スキーヤーの属性を踏まえた対策

態度変容調査においては、スキー場索道利用のスキーヤーと非利用のスキーヤーの間でアンケート結果に優位な差が見られた。

行政が実施している取組等においては、これまで、バックカントリーとサイドカントリーを一緒くたに「バックカントリー」として対応がなされてきた。報道等における扱いも同様である。

管理のされていないエリアに足を踏み入れるという点で、スキーヤー個人に求められる知識やスキル等に、バックカントリーとサイドカントリーといった境界線は存在しないが、実際には次のような特徴がある。

	入山者の傾向	事故の傾向	欧米豪系	アジア系
バックカントリー	・中級者以上が多い ・欧米豪系が多い	数は相対的に少ないが起きれば大事故につながりやすい	・知識、スキル等は一定水準にある ・北海道の山を自国の山と同様に考えている（深雪への対応能力や刻一刻と変わる天候等への対応能力への疑問）	・道具も持たずに入山 ・知識、スキルが不足 ・コミュニケーションがとりづらい
サイドカントリー	・初心者、初級者が多い ・アジア系が多い	多くの遭難事故が発生している		

※遭難事故状況調査、現場山岳ガイドの意見等をもとに分析

今後はこれらの特徴を詳細に分析し、外国人の行動様式・国籍・経験やレベルなどを細分化して、それぞれに応じた予防対策をとっていく必要がある。

例えば、バックカントリーにおいては、深雪への対応や天候の特徴等をはじめとした北海道の地域特性を踏まえた情報発信、サイドカントリーにおいては、申請制、道具を持たない者はいれない位置にゲートを設置等、それぞれのエリアに合わせた対策をとることが求められる。

4 事業のまとめ

（２）必要とされる安全対策（情報発信）

本事業における各種調査の結果や現場山岳ガイド等の意見を踏まえると、外国人スキーヤーの事故発生要因として、次のようなものが考えられる。

●知識・技術等の過信

【調査結果】

- ・実態把握アンケート調査、態度変容調査ともに、約８割の回答者が、自らのスキルレベルを上級者～エキスパートと回答している。

【現場意見】

- ・外国人スキーヤーの救助時に、なぜバックカントリー等に簡単に足を踏み入れたのかと尋ねると、非圧雪コースと同様と考えていたと回答。
- ・深雪・急斜面等に登攀用具なしで入り込んでいるのを頻繁に目にする。

●北海道の山岳・気候天候・地域特性等への理解不足

【調査結果】

- ・実態把握アンケート調査、態度変容調査双方に共通する回答結果として、これまで外国人スキーヤーが滑ってきた他のエリアと比べて、北海道の山における雪崩リスクは低いと考えられている傾向にある。

【現場意見】

- ・日没後に下山する外国人スキーヤーを定期的に目にする。

これらの要因を減らしていくためには、外国人スキーヤーの意識を変容させる対策が必要であるが、時と場所を選ばずに、多くの外国人スキーヤーの意識を変容させる手段としては、やはり情報発信が最も有効であると考えられる。

本事業においては、安全対策としてどんな手段が有効かを検証するための取組としてホームページを制作し情報発信を行ったが、ホームページの認知度は、態度変容調査時のヒアリングにおいても30%程度にとどまり、十分な認知を得ているとは言い難い結果となった。ホームページ等による情報発信にあたっては、まずはそのホームページを認知させることが前提条件となるため、認知獲得のための継続したホームページ運営及び効果的なプロモーションが必要となる。

情報がどの程度リーチしているか、という点については、今回の事業における実態把握アンケート調査や態度変容調査の結果によると、外国人スキーヤーにとって、北海道でバックカントリー等を滑るにあたっては、全体的に情報が不足していると考えられている。つまり情報がリーチしておらず（もしくは必要な情報が発信されておらず）、行政機関等が運営するホームページやSNS等による注意喚起については、ほとんど閲覧されていないものと考えられる。（そもそも認知されていない可能性が高い。）

4 事業のまとめ

同様に、現場山岳ガイド等によると、スキー場や各入山口等に掲示されている注意書きや、啓発イベントで配布されるビラ等を見ているスキーヤーはほぼおらず、また、国内・道内のニュース等でバックカントリー遭難が頻繁に報道されるが、登山口等で多くの外国人に、例えば、前日に発生した事故の話をして「事故があったのか？」と首を傾げるばかりとのことであり、情報が伝達されていないことが伺える。

以上のことから、調査結果・現場意見の双方に共通して言えることは、外国人スキーヤー達に情報が伝達されていないという現実である。

今求められるのは効果的な情報発信であり、効果的とは、外国人スキーヤーにその情報発信を認知・伝達させ、そして理解させることにあると考えられる。

効果的な情報発信施策

- ①北海道のバックカントリー情報を一元化したプラットフォームの構築
- ②スキーヤーにとって魅力的な（価値の高い）コンテンツの提供
ウェブカメラ、事故速報、積雪情報、雪崩情報など
- ③プラットフォーム誘導策の集中的展開
海外メディアへの露出
リスティング広告やSNS広告をはじめとしたウェブ広告の活用
SNSコミュニティやインターネットフォーラム等への積極的な投稿
空港や都市部等、外国人が集中するエリアでの広告活動 など
- ④以上3点の一体的な実施及びプラットフォームのブランディング

5 受託事業者からの提案

（１）取組の主体

安全対策の他にも、道路・駐車場（除雪帯等含む）問題、国有林・道有林等山林の管理に関する問題、国立公園・国定公園等の自然公園の保護に関する問題、外国人スキーヤー達による街中での迷惑行為に関する問題、その他文化の違い等により生じるマナー問題や地元住民とのトラブル等、バックカントリーを取り巻く課題は多岐にわたる。

これら課題を解決していくためには、組織ごとの単発的・単年度限りの取組などではなく、包括的かつ一体的な、また何より継続的な取組が不可欠である。

また、有識者検証において指摘のあった情報発信の信頼性を鑑みると、行政機関が取組の主体となることが強く求められ、また一組織・一部署のみが特定の課題に取り組むのではなく、複数の組織・部署が有機的に連携し、組織横断的な対応を行うことが不可欠である。

包括的・一体的・継続的な取組を、組織横断的に対応するためには、各課題の所管部署及び雪山に携わる事業者等の関係機関を構成員とした協議会を設立し、各構成員の負担金拠出によって取組のための予算を確保する等、具体的で実効性のある組織運営が期待される。

（２）入山者数の適正化（安全対策と観光資源の観点から）

これからも増え続けることが予想される外国人スキーヤーであるが、すでに二世コや富良野、旭岳等では、スキーヤーの数が飽和状態となっている。この飽和状態が、より誰もいない山の奥地へとスキーヤーの足を運ばせ、結果として道迷い等の遭難事故の増加につながっているとも見ることができる。

北海道の雪質の良さ、雪山本来の自然の姿を「価値あるもの」「観光資源」「残すべき財産」と考える場合には、入山者数の適正化を図ることが重要である。入山者数を適切にコントロール（ニュージーランドのミルフォードトラックなどが好事例）することにより、入山者には適切な人数・適切な場所でその山を遊んでもらい、その結果として遭難事故を減らしていくことも安全対策の考え方の一つである。

5 受託事業者からの提案

（３）共助による救助組織の再構築

北海道警察ホームページにおいて公表されている資料によると、少なくとも2025年2月28日時点において、外国人の遭難者数は昨シーズン（令和5年11月～令和6年3月）の倍以上の数値となっている。遭難者数の増加は、警察機関や消防機関を消耗させ、またこれらのリソースが遭難救助ばかりに割かれれば、本来そのリソースが必要なところに割り当てられなくなるおそれがある。

こういったリソースの不足によるトラブル等を未然に防ぐために、行政の主導により、民間の救助組織の再構築が求められる。例えば、既存の遭対協が機動的・有機的に活動できるよう、予算の充実や人材の確保・育成を図る等、事故の種類に応じて、警察機関・消防機関、地域等と連携して救助に当たることのできる組織を編成する必要がある。

（４）おわりに

以上に述べたような取組を実現するためには、行政機関のみならず関係機関が本来の意味で連携して、北海道におけるバックカントリーをどのように捉えてどのように活用していくか、といった目指すべきビジョン（フレームワーク）を作り上げることが急務である。

（例えば、観光や地域経済の観点からすると、バックカントリー入山者数の増加は望ましいことであるが、自然環境保護等の観点から見た場合、バックカントリー入山者数の増加は、環境への負荷・インパクトを発生させるおそれがあり、望ましいものではないとの見方もある。）

このビジョンをもとに、場当たりのでない長期的かつ広い視野をもった包括的な対策を行っていくことが強く求められている。

そうした取組が、結果として北海道のブランド力を一層高め、再訪者の更なる増加や地域経済への貢献にもつながっていくだろう。